

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|---------------|---|-----------------------|--------|--|-------|-----------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立橋高校 サッカー部 | 顧問・外部指導者氏名 | 顧問 伊藤悠治・鹿又敏 外部指導者 金基洙 | 電話/FAX | TEL024-535-3395 FAX024-535-3397 | Email | tachibana-h@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| <p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して、体力や運動技能の向上を図るとともに、「自主・自律・自立」の精神を備えた人材の育成を目指す。</p> <p>(2) 各部において高い目標を設定し、その目標に向かうことで指導者と部員および部員相互の正しい人間関係を形成することを目指す。</p> | | <p>各部の活動目標</p> <p>(1) 団体行動の中で、他人のために行動する心を身につける。</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成。</p> <p>(3) 先生方や他の生徒から応援される集団を目指す。</p> | | | <p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 各種大会で上位入賞を目指している。</p> <p>(2) 学業との両立を図りたいと考えている。</p> | | |
| <p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針および年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって学業との両立を図れるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p> | | <p>各部の指導方針</p> <p>(1) 限られた時間での練習により、自分から積極的に動く力を身につけさせる。</p> <p>(2) 部員が自ら課題を見つけ、それを克服する力を身につけさせる。</p> | | | <p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 週末についても、オーバーワークにならないように午前中からのみの練習としている。</p> | | |
| <p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> | | <p>各部の指導内容</p> <p>(1) 月・火・木・金はグラウンドにて個人・チーム戦術練習</p> <p>(2) 土は外部コーチのチーム戦術練習。</p> | | | <p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 時々自身も練習参加し、プレーの流れの中で指導する。</p> | | |
| <p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めの部活動保護者会において、各顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。保護者会が設定されていない部については、書面にて連絡を取る。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p> | | <p>各部の指導方法</p> <p>(1) 個人技術、チーム戦術ともに個々に指導する。</p> <p>(2) チーム戦術時はその日の目標を設定し、達成を目指す。</p> | | | <p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 部の年間計画の共有を図る。</p> <p>(2) 生徒の学校生活における生活態度や進路希望状況などの情報を共有することで、生徒の現在から将来までを見据えて指導にあたる。</p> | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------------|--|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|--|--|--|
| 学校行事や定期 考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 | | 中間考査 | スポーツ大会 | 文化祭 | 期末考査 終業式 | 始業式 修学旅行 芸術鑑賞教室 | 中間考査 | | | 学年末考査 | 卒業式・終業式 |
| 各種大会の予定 | Fリーグ | Fリーグ インターハイ | Fリーグ | Fリーグ | 選手権 | 選手権 | 選手権 | 新人戦 | | | | |
| 練習試合・遠征等 | 練習試合 | 練習試合 | 練習試合 | 練習試合 | 練習試合 | 練習試合 | 練習試合 | 練習試合 | 練習試合 | | | |
| シーズン区分) | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | 個々の技術・体力 の向上を図ると ともに、チーム戦術 の意識を伸ばす。 | 大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。 | 大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。 | 大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。 | 大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。 | 大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。 | 大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。 | 大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。 | 大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。 | 個々の技術・体力 の向上を図ると ともに、チーム戦術 の意識を伸ばす。 | 個々の技術・体力 の向上を図ると ともに、チーム戦術 の意識を伸ばす。 | 個々の技術・体力 の向上を図ると ともに、チーム戦術 の意識を伸ばす。 |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|-----------------|--|--------------------|--------|---|-------|-----------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立福島西高等学校・弓道部 | 顧問・外部指導者氏名 | 顧問：鈴木里華 外部指導者：高井幸子 | 電話/FAX | TEL 024-546-3391 FAX 024-539-5029 | Email | suzuki.rika@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。 | | 活動目標 地域指導者の活用による部活動の活性化と秋の新人戦・昇段審査に向け、競技力の向上を図る。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と、運動に親しむことを目的としている部員が混在している。 (2) 定期審査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。また、通塾のため部活動の早退を希望する部員もいる。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。 | | 指導方針 (1) 顧問の指導で不足する技術的・精神的指導を、外部の指導者を招聘することにより補い、生徒の競技力の向上を図る。 (2) 選手であり、指導経験が豊富な指導者と顧問が連携・協力し、弓道場の環境整備や生徒に礼法など専門的な技能を正しく身につけられるように努める。 | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体調・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 | | 指導内容 (1) 競技の特性上、新入部員は全員初心者であるが、当該指導者の協力により、基礎から射法まで、一貫した指導計画を立て、指導を行う。 (2) 昇段審査の練習を通して、部員全員が競技上の礼法を習得することができるようにする。 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導スタッフが意識的に相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。 | | 指導方法 (1) 全体的にメリハリのある練習を心がけ、弓道は個人指導が中心となりがちだが、アイパットを利用して、一人一人への指導を全体へと広げ、多くを学べるようにする。 (2) 「体配」が正しくでき、息合いに合わせて安定した行射ができるよう協力し、指導していく。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の訪問日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---------------|--|--|---|--|--|---|---------------------------------|---|---|----------------------------------|--|--|
| 学校行事や定期審査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部 | 中間審査 | 期末審査 | 校内球技大会 終業式 | 文化祭 | | 中間審査 | 期末審査 | 終業式 | | 学年末審査 | 卒業式 歩こう会 |
| 各種大会の予定 | 昇段審査 県春季大会 | 県北春季大会 インハイ地区大会 | インハイ県大会 県総地区大会 | 県総県大会 | | 市民体育祭 地区新人大会 | 昇段審査 県新人大会 | | | 通信記録会 | 地区錬成会 | 県錬成会 |
| 練習試合・遠征等 | 月に1回、校内記録会・1日練習試合を設定 | 月1回校内記録会 連休中、1日練習試合を設定 | 月1回校内記録会 | 月1回校内記録会 (自校安土整備) | 3年生壮行試合 3年生納射 | 月1回校内記録会 | 月1回校内記録会 | 月1回校内記録会 | 月に1回、校内記録会・1日練習試合 | 月に1回、校内記録会設定 | 月に1回、校内記録会・1日練習試合 | 月に1回、校内記録会・1日練習試合 |
| シーズン区分) | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期・充実期 | 充実期・試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | 準備期・充実期 |
| 活動内容・ねらい | 弓道の特性や弓具の名称・扱い方を知る。「射法訓」「礼記射義」暗記。射法八節の名称とその動作を覚える・徒手で安全に心がけ、相互練習。 正しい射法八節で弓を引く。 | 射法八節の名称とその動作を覚える ・組弓を使って、形よく「会」の手応えが得られるようにする。 「体配」 ・縦横十文字の基本体型を意識して身につけた技能を活かし、的に向かって矢を放つ。 | ゴム弓で射法八節の基本動作の一連の流れを確認する 手の内の作り方、矢かけのつけ方、矢を番えての牽引ができるようになる。 安全に心がけ、相互練習(縦横十文字の基本体型を意識)する。 | 巻蕪発射を段階的に実施する。十分な会から正しい残心まで、できるようにする。安全に心がけ、巻蕪矢数稽古をする。安全に心がけ、相互練習する。正しい射法八節で弓を引く。縦横十文字の意識強化。 | 納射の方法を知る 射法八節の一連の流れを反復練習する。座射で矢番えができるようにする。 射法八節の一連の流れを反復練習する。座射で矢番えができるようにする。 射法八節の一連の流れを反復練習する。座射で矢番えができるようにする。 射法八節の一連の流れを反復練習する。座射で矢番えができるようにする。 | 安全に心がけ、相互練習する。 試合を前に基本本(基本姿勢・基本動作)の確認をする。 三位一体(身体・心気・弓技)を意識し行射する。 | 大会をおとして見えてきた各自の課題の解決に向け、相互練習する。 | 大会をおとして見えてきた各自の課題の解決に向け、相互練習する。 筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング・ストレッチを行う。 | 各自で高めたい技能の習得に向け、相互練習する。 筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング・ストレッチを行う。 | 筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング・ストレッチを行う。 | 安全に心がけ、相互練習する。「射法八節」(足踏み～残心までのそれぞれのチェックポイントに注意して行う。) | 安全に心がけ、審査の練習をする。「体配」入退場、執り弓の姿勢、矢番え動作が流れるようスムーズにできるようにする。 |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|---|--------------------|--|--------------------|--------|---|-------|--------------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立川俣高等学校・フェンシング部 | 顧問・外部指導者氏名 | 顧問：廣瀬了之・外部指導者：酒井彰子 | 電話/FAX | 電話：024-566-2121 FAX：024-566-4138 | Email | hirose.satoshi@fca.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| <p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 運動部・文化部における部活動指導を通して、生徒の人間的な成長を目指す。</p> | | <p>各部の活動目標</p> <p>(1) 全国大会での上位入賞を目標とする。 (2) 部活動を通して人間的な成長を目指す。</p> | | | <p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 小学校から競技を継続している部員と高校から始めた初心者が混在しているため、クラス分けしながら指導に配慮する。</p> | | |
| <p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 学級や学年を離れて生徒が活動を組織し展開することにより、生徒の自主性、協調性、責任感、達成感などを育成し、仲間や教師(顧問)と密接に触れ合う場を通して、人間的な成長を育む。</p> | | <p>各部の指導方針</p> <p>(1) 年間指導計画に沿った、練習内容を主として競技技術を身につける。 (2) 部活を通して、自主性、協調性、責任感、達成感を身につける。</p> | | | <p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 週1日を休業日とする。 (2) 適宜スポーツドクターに来院していただく。</p> | | |
| <p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に競技用具の安全点検を行うとともに、運動直前直後の心身の状態を把握する。 (2) 校内に体調・いじめ等の相談窓口を設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> | | <p>各部の指導内容</p> <p>(1) フットワーク・アームワーク・戦術・メンタルの強化を図る。</p> | | | <p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 日常の練習において、必ず顧問と外部コーチに相談できる時間を設ける。</p> | | |
| <p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 大会終了後、定期的に顧問から部活動の運営状況や活動実績等について文書や説明する機会を設定する。</p> | | <p>各部の指導方法</p> <p>(1) フィジカルを意識したフットワーク・アームワークの強化を図る。 (2) 4つの戦術の徹底を図る。 (3) 遠征・合宿等を通して、試合に慣れさせる。</p> | | | <p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打ち合わせを行い、部員の学校生活における状況について共通理解を図る。</p> | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---------------|------------------------------|-------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------------------------|--------------|-----------------|-----------------|----------------------|------------------------------|----------------------|
| 学校行事や定期考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 | | | 中間考査 | | 終業式 | | 期末考査 | 卒業式 終業式 |
| 各種大会の予定 | | 地区大会 | 県大会 東北大会 | 県総体 | 全国大会 東北総体 | 県外遠征 | 国体 地区新人大会 | 協会主催大会 | 県新人大会 | 協会主催大会 全国選抜予選会 | | 全国選抜大会 |
| 練習試合・遠征等 | 県外遠征 | | | | | | | | | | 県外遠征 | |
| シーズン区分) | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 充実期 | 試合期 |
| 活動内容・ねらい | 県外遠征・練習試合を通して、課題解決に向けたトレーニング | 上位大会に向けてのフィジカル中心のトレーニング | 課題解決に向けてのトレーニング | 課題解決に向けてのトレーニング | 課題解決に向けてのトレーニング | 県外遠征を通して試合でのメンタル強化のトレーニング | 新メンバーでのチーム作り | 課題解決に向けてのトレーニング | 課題解決に向けてのトレーニング | 全国選抜に向けての戦術中心のトレーニング | 県外遠征・練習試合を通して、課題解決に向けたトレーニング | 新学年に向けての、課題解決型トレーニング |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|-------------|--|-----------|--------|--|-------|------------------------|
| 学校名・部活動名 | 安達高等学校サッカー部 | 顧問・外部指導者氏名 | 大内 悟・柳田和洋 | 電話/FAX | 0243-22-0016 | Email | ouchi.satoru@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。 | | 各部の活動目標 (1) 毎日のトレーニングをとおして、個人の体力や運動技能、チーム力の向上を図り、県大会出場、県リーグ昇格を目指す。 (2) 部活動だけでなく学習にも計画的に取り組み、卒業後の進路目標を達成することができるよう努力する。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 県の上位に勝ち進めるチームになりたいと考えている部員が大半である。 (2) ほとんどの部員が部活動と休養のバランスがとれていると感じている。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見直しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。 | | 各部の指導方針 (1) 活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見直しをもって部活動と学習の両立に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、指導を受容的に受けるだけでなく、自ら問題解決を図れる態度を育成する指導をしていく。 | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 | | 各部の指導内容 (1) 個人の基礎的スキル、戦術、体力の向上 (2) チーム戦術、グループ戦術の向上 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) ミーティングを適宜実施し、練習や試合を振り返り、活動方針を確認しながら活動を進めていく。 (2) 指導スタッフが部員と意識的にコミュニケーションをとり、部内における指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。 | | 各部の指導方法 (1) ボールを蹴る、止めるなどの基礎的スキルを反復して身につけさせる。 (2) ウェイトトレーニングにより筋力の向上を図るとともに、短、中、長距離を走ることに伴い、全身持久力や瞬発力の向上を目指す。 (3) ゲーム形式のトレーニングを行い、戦術理解の向上を図る。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | |
|---------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-------------------------|
| 学校行事や定期考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 | 中間考査 | | 期末考査 終業式 | 始業式 | | 中間考査 | 修学旅行 | 期末考査 終業式 | 始業式 | 学年末考査 | 卒業式 | |
| 各種大会の予定 | 地区リーグ戦 | 地区リーグ戦 県高体地区大会 | 県高校大会 地区リーグ戦 | 地区リーグ戦 | 選手権一次大会 | | 選手権二次大会 | 地区新人大会 | 県新人大会 県リーグ参入戦 | | | | |
| 練習試合・遠征等 | 大会期間を除き週末に練習試合を設定 | 大会期間を除き週末に練習試合を設定 | 大会期間を除き週末に練習試合を設定 | 大会期間を除き週末に練習試合を設定 | 週末に遠征・練習試合を設定 | 大会期間を除き週末に練習試合を設定 | 大会期間を除き週末に練習試合を設定 | 大会期間を除き週末に練習試合を設定 | 大会期間を除き週末に練習試合を設定 | | | 各フェスティバル参加 | |
| シーズン区分) | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | |
| 活動内容・ねらい | ・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人技術、戦術を高めるトレーニング | ・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人技術、戦術を高めるトレーニング | ・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人技術、戦術を高めるトレーニング | ・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人技術、戦術を高めるトレーニング | ・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人技術、戦術を高めるトレーニング | ・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人技術、戦術を高めるトレーニング | ・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人技術、戦術を高めるトレーニング | ・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人技術、戦術を高めるトレーニング | ・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人技術、戦術を高めるトレーニング | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・ボールコントロールを高めるトレーニング | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・ボールコントロールを高めるトレーニング | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・ボールコントロールを高めるトレーニング | ・試合期前にしたチーム戦術を高めるトレーニング |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|---|----------------|---|-----------|--------|--|-------|------------------------------|
| 学校名・部活動名 | 県立安積高等学校 サッカー部 | 顧問・外部指導者氏名 | 小林幸大・中川正樹 | 電話/FAX | 024-922-4310/024-931-5313 | Email | Kobayashi.yukihiro@fks.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | サッカー部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 安積の精神「開拓者精神」「質実剛健」「文武両道」に基づき生徒の自尊心や向上心を高め、授業や部活動に対する意欲を向上させ、高い志を持った生徒を育成します。 (2) 部活動終了時刻の徹底や土曜開放の実施等により、学業と部活動のけじめをつけ、家庭学習の時間を確保しつつ部活動のさらなる活性化を図ります。 | | サッカー部の活動目標 (1) 文武両道を実践し、チームの目標「選手権全国大会出場・F1 昇格」と「希望進路実現」を達成させる。 (2) 福島県を代表するふさわしいチームになるために、日頃より質の高い立ち振る舞いを身に著け、行動する。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 中学時代から文武両道を実践し、部活動と勉強の両立によって、入学・入部してくる生徒がほとんどである。 (2) さらに高いレベルで実践し自己実現したいと思っている。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 個性を伸長する。 (2) 姿勢と情操と実践力を養う (3) 自主自律の精神を培う。 (4) 真理と正義を愛する、質実にして真摯な人物を育成する。 | | サッカー部の指導方針 (1) バランスのとれた体力向上・運動技能の習得に努める。 (2) 尊敬しあえる仲間になろう。(自己主張と他者理解) (3) 敗者の美学を追究する。(たとえ負けても安高はすごいと言わせる魅力を持つ) | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 週に1度は完全休養日を当て、また、疲労度に応じた活動をFトレーナーやAトレーナーと連携し、組織的かつ柔軟に取り組む。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 心肺停止等 AEDや担架の設置場所・使用方法について選手・マネージャ全員が把握し、年1回の実技講習を受講している。 (2) 強風・落雷等の自然災害等 ゴールが転倒しそうな場合や雷鳴している場合など、活動を中断・中止する判断基準を明確かつ周知徹底することで防止する。 (3) 不適切な指導 生徒観察や些細な情報にも耳を傾け、相互理解を深め、不適切指導防止・予防に努める。 | | サッカー部の指導内容 (1) オンシーズン期(4~11月)は、リーグ戦を通じて、M-T-M指導方式(ゲーム(Match)から抽出されたチーム課題をトレーニング(Training)により克服し、次のゲーム(Match)で習得を確認する。)を採用し、強化を図る。 (2) オフシーズン期(12~2月)は、フィジカルトレーナーと協力し、体幹トレーニングを計画的に実施する。また、スタミナアップとして、インターバルトレーニングを継続して実施する。 (3) プレシーズン期(3月)は、県外遠征2回、招待試合2回等で、チームコンセプトを確認する。 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 部活動日誌(輪番制)と各個人のサッカーノートにより記載されていることに対しての意見交換を行う。 (2) 進路相談や生活相談等について、常日頃から個別面談を行う。 (3) キャプテン中心のミーティングを試合前後に設け、意思疎通やコミュニティーの場として設ける。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 保護者会総会 4月下旬IH地区大会前に、活動目標や年間計画を説明する。 (2) 壮行会 IH・新人戦地区大会後に、保護者会主催で行い、結果報告する。 (3) 決起集会 選手権大会前に、保護者会主催で行い、活動報告する。 | | サッカー部の指導方法 (1) 科学的トレーニングと栄養摂取・休養を効果的に計画する。 (2) 複数のスタッフや支援者(部長・GKコーチ・Aトレーナー・Fトレーナー・保護者会長)とのかかわりの中で、個々の見聞や社会性の向上を図る。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 各スタッフは、公認指導者資格を取得しており、指導理念は共通している。 (2) 指導計画・内容は、立案時は勿論、年度途中でも状況・状態に応じて柔軟に対応していく。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---------------|--|---|---|--------------------------------------|----------------------------------|------------------------------|---------------------------|---------------------------------|---------------------------------|------------------------------|---|----------------------------------|
| 学校行事や定期考査等の予定 | 入学式・始業式 各種検査 PTA総会 | GW | I期中間考査 | 球技大会 夏季休業 | | I期期末考査 | 校内ロード大会 修学旅行(2年) | II期中間考査 | 冬季休業 | センター試験 | 学年末考査 | 卒業式 終業式 春季休業 |
| 各種大会の予定 | Fリーグ開幕 1~4節 | Fリーグ5節 インカ県予選 | Fリーグ6~8節 | Fリーグ9~12節 | 高校サッカー選手権 一次大会 Fリーグ13節 | Fリーグ 14~15節 県南U17大会 | 高校サッカー選手権 二次大会 | 同 決勝 新人戦地区 | 新人戦県大会 入れ替え戦 | | | |
| 練習試合・遠征等 | 郡山SF(後期) | | | | 強化合宿 静岡遠征 | 相馬遠征 | 県外遠征 | | 東京遠征 | 東京遠征 | | 郡山SF(前期) |
| シーズン区分) | プレシーズン期 オンシーズン | オンシーズン | オンシーズン | オンシーズン | オンシーズン | オンシーズン | オンシーズン | オンシーズン | オフシーズン | オフシーズン | オフシーズン プレシーズン | プレシーズン |
| 活動内容・ねらい | 今年度のチームのベースとなる2・3年生中心のメンバーによる実戦の場とする。 Fリーグ1~4節をしっかりと戦う。 | 全国大会出場を目標に戦う。 連戦になるのでコンディショニングには十分な配慮が必要である。 | Fリーグ中盤戦で疲労や出陣の選手等が出るので、1年生の即戦力の見極めと戦術変更を模索する。 | 秋シーズンに向けた1・2年生の強化のための遠征とリーグ戦の結果を求める。 | 1次大会の結果を踏まえ、秋シーズンに向けて強化計画を再検討する。 | リーグ戦の最終結果から次年度の強化策の原案を考え始める。 | 3年生最後の大会に向けて、チーム一丸となり、戦う。 | 新チームのベース作りと技術・戦術の基礎基本の習得を再確認する。 | 今年の個人・チーム反省を適切に行い、来年の目標設定を設定する。 | プレシーズンに向けた具体的な遠征計画・短期計画を立てる。 | プレシーズンへの成果を分析し、トレーニングに還元することで問題発見・課題克服に努める。 | 4月上旬のシーズンインから逆算したコンディショニングを重視する。 |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|-----------------|---|----------|--------|--|-------|----------------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立安積高等学校・テニス部 | 顧問・外部指導者氏名 | 梅宮康弘・渡邊翔 | 電話/FAX | 024 (922) 4310/024 (931) 5313 | Email | umemiya.yasuhiko@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 文武両道の校訓に則り、学業と部活動の両立に努め、リーダーとなるべき資質を育成する。 (2) 部活動を通して、心身を鍛錬すると共に、個の成長を図りながら他者を尊重し協同する精神を培い、豊かな人間性を育む。 (3) 活動目標や指導の指針を示し、自主的・自発的な活動を促進する。 | | 各部の活動目標 (1) チームとして全国大会出場を旨とし、個々人の目標設定を明確にして、全体のレベルの向上に努める。 (2) 部活動にのみ重きをおくのではなく、高いレベルで文武両道に努め、人間性の成長を図る。 (3) 個の成長と部としての公共性を調和させ、自主的・自発的に活動できるようにする。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 全日本大会出場経験者と高校から競技を始めた者の実力差が大きく、個々に応じた指導機会を求めている。 (2) 進路実現を大切に考えている部員が多く、学習時間の確保のために早期に計画を立ててもらうことを望んでいる。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密にし、生徒個々に応じた指導を図り、指導内容や指導法を研究することで、効果的に指導できるようにする。 | | 各部の指導方針 (1) 各人の長期目標・短期目標を設定し、学校対抗戦で全国大会に出場できるチームとなるように練習メニューを考え、精度を上げるように活動する。 (2) 個々の成長を自主的・自発的に進めるように指導するとともに、自己の向上をチームとしての力に反映できるように協調の精神を涵養し、チーム力を向上させる。 | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 競技力向上には体力向上が不可欠だが、基礎トレーニングの時間を増やすことは学習時間を奪ってしまうことになり、学習時間を確保しようと睡眠不足になると、怪我を発生しやすくなるので、平日の練習時間を厳守させ、休養日を必ず設けるようにしている。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うと共に、運動前後の身体の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応ができるようにする。 (3) 校内で不適切な指導に対するアンケートを実施し、かつ相談の窓口を設け、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 | | 各部の指導内容 (1) 週一度の休養日を設け、心身のリフレッシュと学力向上に努めながら、平日の短い練習時間を如何に密度濃くできるかお互い意識し合いながら活動させる。 (2) 休日は積極的に練習試合・校内ランク戦を実施し、日々の練習を試合に活かせるように図る。 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 部長を通して、選手の希望をくみ取ると共に、戦術等の質問を積極的にするように促し、選手の考え方の把握に努める。 (2) 練習試合を通して、感想を具体的に話させ、アドバイスすることで一方的な指導にならないように注意する。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 年度初めのPTA総会時に関係者より、学校の部活動への取り組み等について説明し、質問を受ける機会を設ける。 (2) 大会や合宿等の連絡を通して、活動内容や目的などについて保護者への説明責任をしっかりと果たしていく。 | | 各部の指導方法 (1) 試合に勝てるようになることを一義と考え、普段の練習を練習のための練習にならないように留意した指導を行う。 (2) 自分の行いたいプレイや試合の運び方を考えさせ、自己の技術と試合の戦略をマッチさせるようにする。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 顧問が3人いるので、副顧問に実力下位層の選手の指導をお願いし、かつ大会等で他の顧問の意見や感想を聞くことで、偏った考えにならないようにする。 (2) 強化講習会での情報等を共有する。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------------|---|--|------------------------------------|---|--------------------------------|----------------------------------|---|----------------------|----------------------|---|---|--|
| 学校行事や定期 考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動編成 | | 中間考査 | 実力テスト 体育祭 | 夏季課外 課題テスト | 期末考査 | | 実力テスト 中間考査 | 修学旅行 冬季課外 | 課題テスト | 学年末考査 | 卒業式・終業式 |
| 各種大会の予定 | 全日本ジュニア 福島県予選会 | 高校体育大会地区 予選 | 高校体育大会県大会 東北高校大会 | 全日本ジュニア東北予選 | インターハイ 全日本ジュニア 新人戦地区大会 | 新人戦県大会 国民体育大会 | 東北選抜大会 | 協会地区予選会 | | 県ダブルス大会 | 東北ダブルス大会 | 全国選抜大会 協会地区予選会 |
| 練習試合・遠征等 | | GW期間強化練習 練習試合を二日 新潟遠征 | 練習試合を二日 | 強化練習会参加 | 強化練習会参加 練習試合二日 | 練習試合二日 | 練習試合を二日 | | | | | |
| シーズン区分) | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 充実期 | 充実期 | 充実期 | 充実期 | 試合期 |
| 活動内容・ねらい | ・県大会を勝ち上がり、東北大会への出場権を得る。 ・高校体育大会地区予選への練習。 ・新入部員の基礎技術習得。 | ・高校体育大会県大会選に向けた準備をする。 ・各自の技術の向上を図る。 | ・東北ジュニアに向けた準備をする。 ・各自の技術の向上を図る。 | ・インターハイに向けた準備をする。 ・新人戦に向け、各自の技術の向上を図る。 | ・新人戦に向けた準備をする。 ・各自の技術の向上を図る | ・東北選抜に向けた準備をする。 ・各自の技術の向上を図る。 | ・東北選抜に向けた準備をする。 ・これまでの大会を通して見つかった課題の解決に向けた練習をする。 | ・各自の課題を解決するための練習をする。 | ・各自の課題を解決するための練習をする。 | ・基礎トレーニングを中心に、屋外で練習できる機会を捉えて、各自の基礎技術の向上を図る。 | ・基礎トレーニングを中心に、屋外で練習できる機会を捉えて、各自の基礎技術の向上を図る。 | ・全国選抜に向けた準備をする。 ・地区予選に向け、各自の技術の向上を図る。 |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|--------------------|--|-------------------|--------|---|-------|------------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立安積高等学校 ソフトテニス部 | 顧問・外部指導者氏名 | 星 正人・ 近藤 秀生・ 渡辺 知 | 電話/FAX | 024(922)4310/024(981)5313 | Email | hoshi.masato@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 文武両道の校則に則り、学業と部活動の両立に努め、リーダーとなるべき資質を育成する。 (2) 部活動を通して、心身を鍛錬すると共に、この成長を図りながら他者を尊重し協同する精神を培い、豊かな人間性を育む。 (3) 活動目標や指導の指針を示し、自主的・自発的な活動を推進する。 | | 各部の活動目標 (1) 高校総体で団体戦において全国大会へ出場することを最終目標とする。 (2) 今年度は1年生と2年生のみのメンバーとなるため、新人戦団体での県大会ベスト4を目指す。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 難関大学への進学を希望している生徒が多く、家庭学習時間を確保するため効率の良い練習が必要となる。 (2) 中学時代実績を残してきた選手は少ないため、基礎、基本を重視した練習が必要となる。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密にし、生徒個々に応じた指導を図り、指導内容や指導法を研究することで、効果的に指導できるようにする。 | | 各部の指導方針 (1) 自分の可能性を信じ、諦めずに粘り強く目標に向かって努力することによって人間的に成長する。 (2) 学業第一でその上に部活動があることを自覚し、文武両道の精神の元、部活動と学業の両立を図る。 | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 休日を定期的に取り入れると同時に、けが予防のために練習前にウォーミングアップを十分に行い、整理運動も確実にを行い、翌日に疲れを残さない練習を心がける。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うと共に、運動前後の身体の状況を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応ができるようにする。 (3) 校内で不適切な指導に対するアンケートを実施し、かつ相談の窓口を設け、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 | | 各部の指導内容 (1) ソフトテニスの技術(ストローク、ボレー、ローボレー、スマッシュ、サービス等) (2) 体カトレーニング(ダッシュ、ランニング、ラダー等) (3) ゲーム練習 (4) メンタルトレーニング | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 部長と意見交換を密に行い、選手の意向をくみ取り、練習、試合等の計画を実施する。 (2) 2名の顧問とコーチで情報交換を行い、選手の現状を総合的に把握し指導に生かしていく。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 年度初めのPTA総会時に関係係りより、学校の部活動への取り組み等について説明し、質問を受ける機会を設ける。 (2) 大会や合宿等の連絡を通して、活動内容や目的などについて保護者への説明責任をしっかりと果たしていく。 | | 各部の指導方法 (1) 平日は、16時40分～19時の基本を重視した練習を行う。 (2) 土曜日、日曜日は、9時～13時のゲーム練習を入れた練習を実施する。 (3) 他校との目的を明確化した練習試合を計画、実施する。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 指導者間で定期的にミーティングを行う。 (2) 講習会で得た最新の指導法に関する情報を共有し、共通の指導方法のもと練習を行う。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------------|---|--|------------------------------|-----------------|----------------------------------|------------------------------|----------------------|-------------------------------|---------------------|-----------------|-----------------|--------------------------------|
| 学校行事や定期 考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動編成 PTA総会 | | 中間考査 | 実力テスト 体育祭 | 夏季課外 課題テスト | 期末考査 | | 実力テスト 中間考査 | 修学旅行 冬季課外 | 課題テスト | 学年末考査 | 卒業式 終業式 |
| 各種大会の予定 | 県中県南団体対抗 ジャンパカップ | 高校体育大会地区 | 高校体育大会県 県総体地区 | 県総体県 インターハイ | 斎藤旗杯 | 新人戦地区 | | 新人戦県 | インドア地区 インドア県 | インドア東北 | | |
| 練習試合・遠征等 | 地区大会へ向け他 地区と練習試合 | 秋田遠征 県大会へ向け他県 と練習試合 | | 中高合同研修大会 | いわきフェスタ 県中地区と練習試 合 | | 他県との練習試合 | | | | | 山形近県 |
| シーズン区分) | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 充実期 | 充実期 | 充実期 | 充実期 |
| 活動内容・ねらい | ・高校総体地区大 会に向け練習す る。 ・新入生の勧誘と 指導を行う。 | ・最大の目標であ る高校総体県大会 へ向けた練習をす る。 | ・東北大会、全国 大会へ向けた練習 をする。 | ・新チームを編成 する。 | ・新人戦へ向け、 基本技術、基礎体 力の充実を図る。 | ・新人戦へ向けた ゲーム練習を取り 入れる。 | 新人戦県大会へ向 けた練習をする。 | ・新人戦終了後イ ンドアへの切り替 えを行う。 | ・インドアでの試 合に対する対策 | ・基礎体カトレー ニング | ・基礎体カトレー ニング | ・インドアからア ウトドアへの切り 替えを行う。 |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|---|-----------------|---|-----------|--------|--|-------|----------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立郡山高等学校サッカー部 | 顧問・外部指導者氏名 | 榎田正則 立田勇人 | 電話/FAX | 電話 024-951-0215 FAX 024-951-8911 | Email | koriyama-h@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を導ぶ態度や克己心を培い、知・徳・体バランスのとれた人間力の高い生徒を育成する。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。 | | 各部の活動目標 (1) 技術の向上により全国大会出場を目指す。 (2) サッカーをとおして社会で通用する人間性を身につける。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。 (2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。また、通塾のため部活動の早退を希望する部員もいる。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。 | | 各部の指導方針 (1) 思いやり。挨拶をする。時間を守る。物を大切に作る。 (2) 単純なプレーを、より正確に行う。 (3) 苦しいときこそ自分に負けない(敵に勝つ、自分に勝つ) | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 日常的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態に配慮する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ対策委員会を設置、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 | | 各部の指導内容 (1) とめる。ける。はしる。 (2) 思いやりのあるプレー (3) チームとして戦うため、グループ戦術・チーム戦術の徹底。 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動後援会総会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。 | | 各部の指導方法 (1) 短時間で中身の濃いトレーニング。 (2) 日常生活と切り離さずに考えてサッカーに取り組む。 (3) 自分で練習を楽しくする。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者と適宜情報交換を行い練習内容や練習方法を検討する。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---------------|--|---|---|---|---|-----------------------------|--|----------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 学校行事や定期考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 新入生入部 | 中間考査 | 期末考査 | 文化祭・終業式 中学生体験入学 夏季課外 | 夏季課外 | | 中間考査 マラソン大会 | 期末考査 | 終業式 冬季課外 | | 期末考査 | 卒業式・終業式 |
| 各種大会の予定 | U-18サッカーリーグ開幕(9月まで) | 地区高校大会 | 県高校大会 | | 高校サッカー選手権大会(2次) | U-17 秋季大会 | 高校サッカー選手権大会(2次) | 地区新人大会 | 県新人大会 | | | |
| 練習試合・遠征等 | 郡山F(後期) | 盛岡遠征 | | 県外合宿 | 高山遠征 真岡カップ | | 選手権に備えての県外遠征試合 | | 千葉遠征 | 群馬遠征 | | 土浦市長杯 郡山F(前期) 埼玉遠征 |
| シーズン区分 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | 充実期 |
| 活動内容・ねらい | ・フェスティバルをとおして見えてきたチームの課題解決に向けたトレーニング ・基本技術の習得 | ・大会をとおして見えてきたチームの課題解決に向けたトレーニング ・基本技術の習得 | ・大会をとおして見えてきたチームの課題解決に向けたトレーニング ・グループ戦術の習得 | ・大会をとおして見えてきたチームの課題解決に向けたトレーニング ・グループ戦術の習得 | ・大会をとおして見えてきたチームの課題解決に向けたトレーニング ・グループ戦術、チーム戦術の確認 | ・選手権に向けてチーム戦術の徹底 ・心と体の調整 | ・大会をとおして見えてきたチームの課題解決に向けたトレーニング ・チーム戦術、リスタートの確認 | ・大会に向けてチーム戦術、リストアの確認 | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・基本技術の習得 | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・基本技術の習得 | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・基本技術の習得 | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・基本技術の習得 |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|---------------------|---|-------------|--------|--|-------|----------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立郡山高等学校バスケットボール部 | 顧問・外部指導者氏名 | 梅野克也 ・ 吉江和泰 | 電話/FAX | 電話 024-951-0215 FAX 024-951-8911 | Email | koriyama-h@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| <p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p> | | <p>各部の活動目標</p> <p>□ バスケットボールを通して、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>□ 「限界への挑戦」をチーム目標として、「考えるバスケットボール」に取り組み、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p> | | | <p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 生徒たちが、東北大会・全国大会への出場をチーム目標として設定し、チームとして意識が高い状態にある。</p> <p>(2) 定期考査等の直前については、学習時間を確保したいと考えている部員もいる。</p> | | |
| <p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p> | | <p>各部の指導方針</p> <p>□ チーム目標である「限界への挑戦」を一人一人が具現化する個人目標を設定させた上で、東北大会・全国大会出場をチームの達成目標として示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>□ 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、一人一人に考えさせる指導を行い、「文武両道」の実践による心身の成長を促す。</p> | | | <p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 毎週1日は必ず休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p> | | |
| <p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> | | <p>各部の指導内容</p> <p>□ 基礎練習の大切さを実感させ、心身ともにバランスのとれた成長を促す。</p> <p>□ プレー中の状態を、思考・判断・表現に分類して指導し、生きる力を養う。</p> <p>□ どのようにプレーしたらよいかを常に思考させ、複数の選択肢からプレーを判断させ、練習の成果を表現させる。</p> | | | <p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p> | | |
| <p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度はじめと年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p> | | <p>各部の指導方法</p> <p>□ プレーの見本を示しながら、生徒たちに考えさせ、教え合わせることで、主体的に活動できる生徒を育てる。</p> <p>□ オフェンス、ディフェンスともに、なぜその方法が効果的なのかを考えさせ、論理的に説明できる生徒を育てる。</p> | | | <p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p> | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---------------|---|--|--|--|---|--|--|---|--|--|---|---|
| 学校行事や定期考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 新入生入部 | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 | | | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 | | 期末考査 | 卒業式・修了式 |
| 各種大会の予定 | | 県高校体育大会 地区大会 | 県高校体育大会 県総体地区大会 | | | 高校選抜大会 地区大会 | 高校選抜大会 県大会 | | 全国高校選抜大会 地区新人大会 | 県新人大会 | 東北新人大会 | 地区選抜交流戦 |
| 練習試合・遠征等 | 週末に隔週で1日 練習試合を設定 | 大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定 | 大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定 | 大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定 | 夏季合宿 計 5泊7日 | 大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定 | 大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定 | 大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定 | 大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定 | 週末に隔週で1日 練習試合を設定 | 週末に隔週で1日 練習試合を設定 | 卒業生壮行試合 |
| シーズン区分) | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 試合期～準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング | ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|---|----------------|---|------------|--------|--|-------|----------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立郡山高等学校空手道部 | 顧問・外部指導者氏名 | 遠藤 健 菅井 保夫 | 電話/FAX | 電話 024-951-0215 FAX 024-951-8911 | Email | koriyama-h@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、知・徳・体バランスのとれた人間力の高い生徒を育成する。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。 | | 各部の活動目標 「心・技・体」空手道精神に則り、技術の向上のみならず精神力の向上も図る。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。 (2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。また、通塾のため部活動の早退を希望する部員もいる。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。 | | 各部の指導方針 空手道精神に則り、部員間においても礼を尽くし、周囲の方々への感謝の心も忘れずに活動を行うことで、心身ともに充実しバランスのとれた成長を図る。 | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 日常的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態に配慮する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体調・いじめ対策委員会を設置、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 | | 各部の指導内容 活動を行う前には十分に準備運動をさせ怪我や事故の防止に努める。また、日頃から部員の健康観察に留意し、心身の状態の把握に努める。 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動後援会総会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。 | | 各部の指導方法 毎月保護者に配付する活動予定表に日頃の部活動の様子を記載し、紙面を通じて普段の活動の様子が伝わるよう心がけ、保護者との情報共有と連携に努める。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者と適宜情報交換を行い練習内容や練習方法を検討する。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | |
|---------------|---------------------------------|--------------------------|------------------------------------|------------------------|------|-----|---------------------------------|-------------------------|------------------------------------|-----|------|----------------------------------|----------------------------------|
| 学校行事や定期考査等の予定 | 入学式 始業式 部活動紹介 新入生入部 | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 中学生体験入学 夏季課外 | 夏季課外 | | 中間考査 マラソン大会 | 期末考査 | 終業式 冬季課外 | | 期末考査 | 卒業式4 終業式 | |
| 各種大会の予定 | | 地区高校大会 | 県高校大会 | | | | 地区新人大会 | 県新人大会 | | | | | |
| 練習試合・遠征等 | 他校との合同練習を設ける | 強化練習 | | 合同練習 | 合同練習 | | 強化練習 | | 合同練習 | | | 卒業生壮行試合 | |
| シーズン区分 | 準備期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | 試合期 | 試合期 | 充実期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | |
| 活動内容・ねらい | ・大会に向けて体力をつけることを念頭に置いての稽古を心がける。 | ・大会に向けて各自が課題を設定して稽古を重ねる。 | ・大会をとおして見えた反省点を踏まえ、その克服に向けた稽古を重ねる。 | | | | ・大会に向けて体力をつけることを念頭に置いての稽古を心がける。 | ・大会に向けて各自が課題を設定して稽古を重ねる | ・大会をとおして見えた反省点を踏まえ、その克服に向けた稽古を重ねる。 | | | ・次年度に向けて体力をつけることを念頭に置いての稽古を心がける。 | ・次年度に向けて体力をつけることを念頭に置いての稽古を心がける。 |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|--------------------|--|---------------------------------|--------|---|-------|--|
| 学校名・部活動名 | 福島県立岩瀬農業高等学校 馬術競技部 | 顧問・外部指導者氏名 | 藤田さとみ / 樋口佳菜 / 鈴木貴洋 / 小澤紀夫・早津 農 | 電話/FAX | 0248-62-3145 / 0248-92-2051 | Email | |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| <p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心および社会性を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズや能力を十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく、民主的で自主的・自発的な活動を促進する。</p> | | <p>各部の活動目標</p> <p>(1) 乗馬をとおして、体力、技能の向上を図る。</p> <p>(2) 「人馬一体」をめざし、動物と一緒にいるスポーツであることから、自然や他者を思いやる気持ちを養う。</p> <p>(3) 自主的な行動ができるよう、各自が考えて行動する。</p> | | | <p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 初心者から始めるにあたり、施設・馬場状態の充実を要望。</p> <p>(2) 全国大会優勝という高い目標を掲げて、ひたむきに練習している。</p> <p>(3) 部員が増えてきたため、数確保と馬の負担軽減を考え、今後頭数を増やしていきたい。そのための予算を増やしてほしい。</p> | | |
| <p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって、自主的に活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、スポーツ科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた人間的な成長を促す指導を展開する。</p> | | <p>各部の指導方針</p> <p>(1) 各種競技会での上位入賞を目的として参加し、自己の技術力向上を目指す。</p> <p>(2) 馬と触れ合わせることで、生徒に内在するストレスを軽減させ、精神的な健康を回復させる。</p> <p>(3) 生徒の技能に合わせた指導を行うことにより、人間性を涵養する。</p> | | | <p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 大会参加後を休馬とし、負担を軽減する。</p> <p>(2) 交代で給餌を行うことで、負担の軽減を図る。</p> <p>(3) 自身の技術・精神の成長について褒める指導を行う。</p> | | |
| <p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 危機対応マニュアルを策定・配布し、職員の危機管理意識を啓蒙すると共に、定期的に施設用具の安全点検を行う。また、生徒の運動の直前直後の心身の状態を的確に把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、教師も生徒も共に緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に服務倫理委員会やいじめ防止対策委員会等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> | | <p>各部の指導内容</p> <p>(1) 馬の扱いについて、管理方法（給餌、馬房の清掃、馬や道具の手入れなど）を一通り指導し、個人の技能に応じて、騎乗を行う。</p> <p>(2) 緊急時の対応について、指導を行う。</p> | | | <p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 顧問が交代で、放課後の指導に入り、馬の世話を一緒に行ったりしている。</p> <p>(2) 顧問毎に得意な分野があるため、それぞれの分野で指導を行う。</p> <p>(3) 連絡を密にし、異常に早く気づけるよう対応する。</p> | | |
| <p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や夏休み前の保護者会、各部活動保護者会において、校長や顧問等から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中の保護者会や学校WEB等により、部活動の運営状況や活動実績等について報告する。</p> | | <p>各部の指導方法</p> <p>(1) 乗馬について、事前に顧問や指導員が説明を行い、実際に手本を示す事で、学ばせる。</p> <p>(2) 大会に参加させ、全国大会常連校と本校馬術部との違いを見て気付かせる。</p> <p>(3) 乗馬クラブに依頼し、より多くの馬を経験させる。</p> | | | <p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 大会毎に専門的な指導を行ってもらい、その都度気付いたことを話し合う。</p> <p>(2) 来校時に、指導方法を習い外部から見た率直な意見を参考とする。</p> | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------------|--|---|--|---|--|---|--|--|---|--|--|--|
| 学校行事や定期 考査等の予定 | | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 | | | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 | | 学年末考査 | 卒業式・終了式 |
| 各種大会の予定 | | インターハイ予選 県大会 | インターハイ予選 東北大会 県総体 | インターハイ (団体戦) | インターハイ (個人戦) | | | 県新人大会 | | | | |
| 練習試合・遠征等 | | | | | ノーザンファーム 合宿 | | | | | ノーザンファーム 合宿 | | |
| シーズン区分) | 準備期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 充実期 | 準備期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | 飼育管理 乗馬の基礎 馬の管理、基礎練習をとおして、馬に慣れさせる。2・3年生は、障害飛越の練習 | 飼育管理 常歩練習 軽速歩練習 繰り返し基礎練習を行い、乗馬の基本を体得させる。 | 飼育管理 正反動練習 馬の動きを直接受けることで、蹄足の上達が早くなるため、繰り返し行うようにする。 | 飼育管理 駈歩練習 調馬策を使用し、合図や手綱に気をとられないよう、揺れやバランスをしっかりと練習させる。 | 飼育管理 輪乗り練習 円を描く練習で、手綱の重要性を理解させる。また、拳と脚の使い方も練習する。 | 飼育管理 前方騎座練習 ツープイントの騎乗を練習し、障害飛越の際の姿勢を理解させる。バランスの重要性を理解させる。 | 飼育管理 障害飛越練習① 横木を使用し、最初は地面に置いたものから始め、徐々に高さを上げていく。生徒の技能に合わせて上下させる。 | 飼育管理 障害飛越練習② 飛越時の姿勢を考えさせる。正しい姿勢以外は落馬の危険性があることを理解させる。 | 飼育管理 総合練習① 今まで学んだ事を一通り体現させる。生徒毎にアドバースを行う。 | 飼育管理 基本乗馬 放牧 馬の体調と精神を充実させる。 | 飼育管理 基本乗馬 放牧 馬の体調と精神を充実させる。 | 飼育管理 基本乗馬 放牧 馬の体調と精神を充実させる。 |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|---|--|------------|---------------------|---|-------------------------------|-------|---------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立田村高等学校・卓球部 | 顧問・外部指導者氏名 | 顧問 大内 健・外部指導者 柏原 裕治 | 電話/FAX | 0247(62)2185 /0247(62)7785 | Email | ouchi.ken@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 部活動を通して、体力や技術の向上を図るとともに、他者を尊重し、公正さと規律を尊ぶ態度を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員に何か必要なかを十分に踏まえ、指導方針を示すとともに、指導者と部員及び部員同士の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。 | 各部の活動目標 (1) 県大会で少しでも多く勝利すること。 (2) きちんとした礼儀等を身に付け、豊かな人間性を育む。 (3) 指示された意味を考え、練習等に臨む姿勢を身に付ける。 (4) 周りを見て行動することができるようになる。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになるために頑張れる部員とがんばれない部員が混在している。 (2) 定期考査前は、学習時間を確保したい。 (3) 経験者と初心者が入混在している。 | | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 活動目標や年間の活動内容等を示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、理論的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。 | 各部の指導方針 (1) 技術の差を埋める。 (2) 個人個人のプレースタイルが何に向いているのかを見極める。 (3) 現段階において、自分自身に何か必要かを考え、技術面・精神面の成長を図る。 | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会や練習試合がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会や練習試合があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) けがや病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。 | | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急の行内研修を実施し、緊急時の対応への備えを万全にする。 (3) 校内に体調・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 | 各部の指導内容 (1) 技術の差が埋まるような技術指導をする。 (2) 向いているプレースタイルが身につく練習をする。 (3) 試合の組立方等の戦術指導をする。 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに、外部指導者が目を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 外部指導者が意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。 | | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 大会参加費等の徴収や連絡事項等の文書を作成し、生徒を通じて配布し、保護者への説明とする。 | 各部の指導方法 (1) 個別指導を中心とし、どうすれば技術が向上するのかを理論的に指導する。 (2) 全体指導の練習の目的について生徒に考えさせ、実際にどんなことを目的にするかを明確にする。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打ち合わせを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的に根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。 | | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---------------|---|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|--|--|--|--|
| 学校行事や定期考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部 | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 | 始業式 体育祭 | | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 | 始業式 | | 卒業式 終業式 |
| 各種大会の予定 | | 協会主催大会 地区大会・県大会 | 地区大会 | 地区大会・県大会 協会主催大会 | 地区大会 | 県大会 | 地区大会 | 県大会 | | | | |
| 練習試合・遠征等 | | | | 3年生壮行試合 | | | | | | | | |
| シーズン区分) | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | ・筋力、全身持久力の向上をトレーニング ・技術向上を目指したトレーニング | ・大会を通して見えてきたチームもしくは個人の課題の解決に向けたトレーニング | ・大会を通して見えてきたチームもしくは個人の課題の解決に向けたトレーニング | ・大会を通して見えてきたチームもしくは個人の課題の解決に向けたトレーニング | ・大会を通して見えてきたチームもしくは個人の課題の解決に向けたトレーニング | ・大会を通して見えてきたチームもしくは個人の課題の解決に向けたトレーニング | ・大会を通して見えてきたチームもしくは個人の課題の解決に向けたトレーニング | ・大会を通して見えてきたチームもしくは個人の課題の解決に向けたトレーニング | ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・技術向上を目指したトレーニング | ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・技術向上を目指したトレーニング | ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・技術向上を目指したトレーニング | ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・技術向上を目指したトレーニング |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|---|----------------|---|--------------------|--------|---|-------|--------------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立小野高等学校・剣道部 | 顧問・外部指導者氏名 | 顧問・鈴木 貴志 指導者・橋本 拓三 | 電話/FAX | 0247-72-3171 / 0247-72-6211 | Email | suzuki.takashi@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| <p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して総合的なコミュニケーション能力を育成し、生徒の自発的な活動と主体的な規律を涵養する。</p> <p>(2) 各種運動の合理的な実践により生涯を通して継続的に運動できる能力を養う。</p> | | <p>各部の活動目標</p> <p>(1) 剣道の鍛錬や修養の中で「剣道の理念」にのっとり人間形成を最大の目標とする。</p> <p>(2) 「正しく強い剣道」を目指し上位大会進出に向けて努力する中で各自が己の心身を鍛える。</p> | | | <p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 部としての目標が明確であり団結しているが、体力・技術の差があり工夫した稽古をする必要がある。</p> <p>(2) 電車やバス通学の生徒が多く、稽古時間が制限されるため配慮する。</p> | | |
| <p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 年間及び月間の活動計画を明確にし、生徒自身が見通しをもって活動に取り組めるように配慮する。</p> <p>(2) 生徒だけでなく、顧問教員も指導者から剣道の指導を受けることにより、教員自身の剣道の指導の向上を図る。</p> | | <p>各部の指導方針</p> <p>(1) 剣道部としての日々の活動の中で、基本的な礼法指導や、規律のとれた団体行動、並びに豊かな人間性を育成できるようにする。</p> <p>(2) 他人への気配りなど常に全員が広い視野で全体を見ることができるようになる。</p> | | | <p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 普段から一週間に一度は休養をとり、大会や遠征の翌日も休養をとるようにする。</p> <p>(2) 稽古後のストレッチを入念にとり疲労回復に努める。</p> | | |
| <p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 施設設備の充実や、施設管理の保全に努め、活動中における事故を未然に防ぐ。</p> <p>(2) 部活動顧問はAED講習や救急救命法講習会などに参加し、救急時への対応を万全にする。また、緊急時には管理職に連絡をし、初期対応を適切に行うことができるようにする。</p> <p>(3) いじめ防止対策推進委員会、服務倫理委員会を設置し、生徒の安心・安全に対する意識を向上させる。</p> | | <p>各部の指導内容</p> <p>(1) 指導者をはじめとする多くの先生方から稽古をいただき、技術の向上を図る。</p> <p>(2) 道場や部室などを公共の空間として認識させ、自ら進んで整理・整頓・清掃を行えるようにする。</p> <p>(3) 昇段審査前には指導者のもと「日本剣道型」の稽古及び筆記試験に向けた勉強会を設定する。</p> | | | <p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 普段から生徒との会話を大切にし、ささいな変化にも気がつけるようにする。</p> <p>(2) 教員自ら生徒と剣を交え、共に汗を流すことで、生徒とのコミュニケーションの取りやすい環境を作る。</p> | | |
| <p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) PTA 総会、部活動保護者会などで、それぞれの部における活動目標について説明する機会を設ける。</p> <p>(2) 休日練習の際には保護者も参加できる機会を作り、日ごろの活動状況を理解してもらう。その際には、顧問や外部指導者との情報交換ができるよう配慮する。</p> | | <p>各部の指導方法</p> <p>(1) 素振り、基本稽古から実践的な稽古まで指導者自らが基に立ち、きめ細かく指導する。</p> <p>(2) 剣道ノート、目標設定シートなどを活用し、日々の成果を振り返りながら各自が明確な目的意識を持って稽古に取り組めるようにする。</p> | | | <p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問と打ち合わせを行い、それぞれの生徒の学校生活の状況を確認し、剣道の指導に生かす。</p> | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------------|------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|---|---|--|---------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|------------------------|--|------------------------|
| 学校行事や定期 考査等の予定 | 始業式、入学式 部活動オリエンテーション | 前期中間考査 | | 前期末考査 夏季休業 | 夏季休業 | | 後期始業式 後期中間考査① 柏葉祭(文化祭) | | 後期中間考査② 冬季休業 | 冬季休業 3学年末考査 | 学年末考査 表彰式 | 卒業式 終業式 |
| 各種大会の予定 | | 高体連地区大会 | 高体連県大会 県総体地区大会 | 県総体大会 | | 前期昇段審査会 | 新人戦地区大会 新人戦県大会 | | 県選抜地区大会 | 県選抜大会 | 後期昇段審査会 | |
| 練習試合・遠征等 | いわき錬成会 | 本校錬成会 安積野錬成会 | | | 県夏季強化錬成会 強化合宿 | | | | 登龍杯 | | | 春季錬成会 |
| シーズン区分 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | 地区大会に備え、練習試合などを実施し、各自の技量を磨く。 | 大会に向けて団体戦の戦法を中心に練習し、個人の技量を高める。 | 3年の引退に伴い、1・2年中心の活動に移行できるよう配慮する。 | 夏季の練習に備え、体力作りを重点をおき、暑さに配慮しながら、しっかりとした鍛錬を行う。 | 錬成会や合宿をとおり、貴重な実践的な経験を積み、夏季休業明けの大会等に繋げる。 | 新人戦、昇段審査に向けて、実践的な練習を重点的に行い、生徒の技量の向上に努める。 | 技の充実、掛り稽古を中心に行い、大会に向けた練習を充実させる。 | 技の充実、掛り稽古を中心に行い、大会に向けた練習を充実させる。 | 基礎体力の向上に向けて、打ち込み稽古・追い込み稽古を重点的に行う。 | 寒さ対策を行い、基礎体力向上を重点的に行う。 | 寒さ対策を行い、基礎体力向上を重点的に行う。昇段審査を受審する生徒には、形の指導を行う。 | 寒さ対策を行い、基礎体力向上を重点的に行う。 |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|-----------------------|--|-----------------|--------|---|-------|--|
| 学校名・部活動名 | 福島県立光南高等学校応援団・チアリーダー部 | 顧問・外部指導者氏名 | 三澤 温乃 (みさわ あつの) | 電話/FAX | 090-3754-0642 | Email | |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| <p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部活動に打ち込める環境を準備し、部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p> | | <p>各部の活動目標</p> <p>「苦しいときこそ笑顔」を合い言葉に、</p> <p>(1) チアダンスの技術力や表現力の向上と、全日本チアダンス選手権で全国大会入賞する。</p> <p>(2) 地域に密着した各種イベント、他の部活動の応援などを行い周囲に元気や活力を与えられるような活動をする。</p> | | | <p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 全日本チアダンス選手権大会に出場し、入賞することを目標に真実に練習に励んでいる。</p> <p>(2) 各種イベント参加や野球応援としてのチア部の練習、全日本ダンス選手権に向けたチアダンスやヒップホップダンスの練習と多種多様な練習内容を身につけたいと日々練習に励んでいる。</p> | | |
| <p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 部活動など互いに切磋琢磨しながら目標に向かって努力する経験を通して、個性的な才能を伸ばすとともに自己を高め続ける力を育てる。</p> <p>(2) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示し、部員が見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(3) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、的確な指導内容や指導法を積極的に活用し、心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p> | | <p>各部の指導方針</p> <p>(1) 部員のニーズを十分に踏まえ、計画的に練習に取り組みせ、技術や表現力を向上させると共に指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p> <p>(2) 部活動を通して、あいさつなどの基本的な生活態度や自己管理能力などを身につけさせる。</p> | | | <p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会や野球応援等がない場合、休休日のいずれか1日を休養日とする。休休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p> | | |
| <p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 施設・設備の整備や安全で清潔な校内環境づくりに取り組む。</p> <p>(2) AEDや設置場所を確認し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等のスクールカウンセラー等相談窓口を設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> | | <p>各部の指導内容</p> <p>(1) 各種イベント、野球応援などの先輩方からの振り入れ、ダンスの技術力や表現力の向上を目指す。また、外部講師・指導者より各種のチアダンスやヒップホップダンス等の技術や表現力を習得し、習得した技術を先輩へと伝達する。</p> <p>(2) 部員相互の望ましいコミュニケーション力を高め目標に向かい心一つに取り組むことができるよう指導し支援する。</p> | | | <p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p> | | |
| <p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について紙面や保護者会等で説明する機会を設定するなど、保護者との連絡を密に取る。</p> | | <p>各部の指導方法</p> <p>(1) 部活動に打ち込める環境を準備し、部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p> <p>(2) 外部講師・指導者より技術面の指導を受け技術力・表現力を高める。</p> | | | <p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p> | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---------------|---|--|--|--|--|---|--|--|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 学校行事や定期考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部 | | 中間考査 | 全校集会 | 全校集会 | 期末考査 | 修学旅行・遠足 | 校内芸術祭 期末考査 | 全校集会 | 全校集会 | 期末考査 | 卒業式・終業式 |
| 各種大会の予定 | 桜祭り等イベント 野球応援 | | 各種イベント参加 | 大町エール交換会 野球応援 | 各種イベント参加 高文連MB発表会 | 秋祭りイベント参加 | J C D A 東北大会 | J C D A 全国大会 | 各種イベント参加 | | | |
| 練習試合・遠征等 | 外部講師レッスン | 外部講師レッスン | 外部講師レッスン | 外部講師レッスン | 外部講師レッスン | 外部講師レッスン | 外部講師レッスン | 外部講師レッスン | 外部講師レッスン | 外部講師レッスン | | |
| シーズン区分) | 準備期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | ・柔軟性・筋力の向上を目指したトレーニング ・1年生へ振り入れ ・野球応援練習 ・基礎技術の習得練習 | ・柔軟性・筋力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・柔軟性・筋力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・大会に向けダンスの振り入れ | ・柔軟性・筋力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・大会に向けダンスの振り入れ | ・柔軟性・筋力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・大会に向けダンスの振り入れ | ・持久力・表現力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・大会に向けダンスの振り入れ | ・大会をおとして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・チームとしての一体化の強化 | ・大会をおとして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・チームとしての一体化の強化 | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|-----------------|---|-----------|--------|--|-------|-------------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立犇工業高等学校・柔道部 | 顧問・外部指導者氏名 | 石田 学・近藤邦男 | 電話/FAX | 0247-43-2131 / 0247-43-3841 | Email | ishida.manabu@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 部活動をととして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。 | | 各部の活動目標 (1)部活動を通して、基礎体力の向上とスポーツの楽しさを実感する。また武道家として礼儀作法の習得を心がけ、普段の学校生活においても、他人の見本になるような行動をとる。 (2)各種大会において上位入賞を目標としている。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。 (2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。また、通塾のため部活動の早退を希望する部員もいる。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。 | | 各部の指導方針 (1)毎月練習計画表を作成し、生徒に提示することで生徒が見通しをもって部活動に取り組めるようにする。 (2)部員と日頃から会話を徹底し、心身ともに体調の管理を徹底して行うことで、部員の体調に合わせた指導を展開する。 | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、休休日のいずれか1日を休養日とする。休休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 | | 各部の指導内容 (1)準備運動を入念に行い、寝技の乱取りや立ち技の乱取り、段階に合わせて投げ技や関節技の攻防を展開していく。 (2)週に3日は体力作りのため、ロードワークや筋肉トレーニングを取り入れる。 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 指導スタッフが意識的会話をもち、また個別面談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。 | | 各部の指導方法 (1)顧問が立ち会い、外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等をもとに実践させる。 (2)疑問点などがあれば練習ノートに記録し、外部指導者来校時に質問するなどの対策をとる。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---------------|----------------------------|--|--|--|---|---------------------|------|---------------------|---|---|---|---------|
| 学校行事や定期考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部 | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 | | | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 | | 期末考査 | 卒業式・修了式 |
| 各種大会の予定 | | 高体連地区大会 | 高体連県大会 県総体地区大会 | 県総体 | | 地区新人大会 | | 県新人大会 | 協会主催大会 | | | |
| 練習試合・遠征等 | | 大会期間を除き週末に1日練習試合を設定 | | | 夏季遠征 2泊3日 | 大会期間を除き週末に1日練習試合を設定 | | 大会期間を除き週末に1日練習試合を設定 | 冬季遠征 2泊3日 | | 週末に隔週で1日練習試合を設定 | 卒業生壮行試合 |
| シーズン区分) | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 試合期 | 充実期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | | ・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング | | | | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング | ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング | |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|---|-------------|--|----------------|--------|---|-------|-------------------------|
| 学校名・部活動名 | 葵高等学校 なぎなた部 | 顧問・外部指導者氏名 | 大澤 真奈美 ・ 石山 友子 | 電話/FAX | 0242(27)5461 / 0242(27)5462 | Email | oosawa.manami@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 部活動を通して、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神公正さと規律を貫ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。 | | 各部の活動目標 (1) なぎなたの正しい技・所作を身に着けるとともに、個人戦・団体戦での県大会優勝を目指して、体力・競技力の向上を目指す。 (2) なぎなた競技を通して、他者を尊重する態度や連帯感を養い望ましい人間関係を形成する。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 高校入学を機に部活動に参加した生徒と、小・中学校などからスポーツ少年団で競技をしてきた生徒が混在しているが、部員全員の目標は、県大会優勝・全国インターハイ出場である。 (2) 生徒は、文武両道の実現を目指している。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導方針及び年間活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しを持って活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。 | | 各部の指導方針 (1) 演技・試合(団体戦・個人戦)で部員が自分の能力を最大限に発揮できるように、各自が持つ技能に応じた指導を行う。 (2) なぎなた競技の基本である礼節を重んじるとともに、科学的・専門的な指導を行い、部員の身体・精神の健全な成長を促す。 | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 放課後の限られた練習時間を充実するように指導する。 (2) 休日の練習時間も3時間程度とし、疲労を残さない。 (3) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努めるとともに、正しい姿勢が日常生活でも生かせるよう意識付けをする。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状況を把握する。 (2) AEDや救急救命法の校内研修を実施し、緊急時の対応への備えを万全にする。 (3) 校内に体調・いじめ・セクハラ等の相談窓口を設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 | | 各部の指導内容 (1) 部員各自が日常の練習で演技競技の基礎・基本の確認を行う。 (2) 様々な形態の稽古を通して自分の弱点を克服するとともに、長所を生かした試合ができるよう指導する。 (3) 学校生活全般を通して、礼節を重んじるなぎなた競技者としての意識を持たせる。 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 個々の部員との練習ノートの交換を通して練習や試合を振り返り、日常の稽古の指導・支援の改善に生かす。 (2) 公式試合・練習試合後の反省会を通して、チームとしての長所・短所を確認するとともに、各人の課題を明確化し、改善に生かす。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績について説明する機会を設定する。 | | 各部の指導方法 (1) 通常の学校での部活動で各自が技能・競技力の向上に努める。 (2) 地区連盟の合同練習会にも計画的・積極的に参加し、科学的・合理的な練習方法や練習を行う。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況等について情報を交換する。 (2) 外部指導者から科学的根拠や正しい演技・作法などに基づく練習内容や練習方法などの情報を入手し、日頃の練習に効果的に活用する。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | |
|-------------------|--|---|---|---|---|--|--|---|---|---|--|--|--|
| 学校行事や定期 検査等の予定 | 入学式 新入生歓迎会 部登録 | 中間検査 | 期末検査 | 終業式 | 始業式 | 葵祭 | 中間検査 | 期末検査 | 終業式 | 始業式 | 学年末検査 | 卒業式 終業式 | |
| 各種大会の予定 | | | IH県大会 東北選手権大会 地区総体 | 県総体 IH全国大会 | 東北総体 | | 国体 連盟主催大会 | 新人戦県大会 | | 東北選抜大会 | 連盟主催大会 | 全国選抜大会 | |
| 練習試合・遠征等 | | 連盟主催錬成会 | | 連盟主催錬成会 | 連盟主催錬成会 | | | | 県錬成会 | 東北錬成大会 | | 連盟主催錬成会 | |
| シーズン区分 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 充実期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | |
| 活動内容・ねらい | ・各自が自らの特性を生かし、技能を向上させるトレーニング ・技術面での基礎・基本を意識したトレーニング | ・各自の技術向上のためのトレーニング ・大会を通して各自の課題を確認したトレーニング | ・大会を通して見えてきたチーム課題解決に向けたトレーニング ・自らの課題を克服するためのトレーニング | ・大会を通して見えてきたチーム課題解決に向けたトレーニング ・自らの課題を克服するためのトレーニング | ・大会を通して見えてきたチーム課題解決に向けたトレーニング ・自らの課題を克服するためのトレーニング | ・各自の技術向上のためのトレーニング ・技術面での基礎・基本を意識したトレーニング | ・各自の技術向上のためのトレーニング ・技術面での基礎・基本を意識したトレーニング | ・大会を通して見えてきたチーム課題解決に向けたトレーニング ・自らの課題を克服するためのトレーニング | ・大会を通して見えてきたチーム課題解決に向けたトレーニング ・自らの課題を克服するためのトレーニング | ・大会を通して見えてきたチーム課題解決に向けたトレーニング ・自らの課題を克服するためのトレーニング | ・各自の技術向上のためのトレーニング ・技術面での基礎・基本を意識したトレーニング | ・各自の技術向上のためのトレーニング ・技術面での基礎・基本を意識したトレーニング | ・各自の技術向上のためのトレーニング ・技術面での基礎・基本を意識したトレーニング |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|---|----------------------|---|----------------------|--------|--|-------|---------------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立若松商業高等学校・ソフトテニス部 | 顧問・外部指導者氏名 | 顧問：新田康徳 ・ 外部指導者：角田敏明 | 電話/FAX | 0242-27-0753 / 0242-29-7380 | Email | nittla.yasunori@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| <p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p> | | <p>各部の活動目標</p> <p>学校全体の活動目標と同じ</p> | | | <p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。</p> <p>(2) 定期考査、資格試験の前など、学習時間をきちんと確保したいと考えている部員が多い。</p> | | |
| <p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p> | | <p>各部の指導方針</p> <p>学校全体の指導方針と同じ</p> | | | <p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p> | | |
| <p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> | | <p>各部の指導内容</p> <p>(1) ソフトテニスの技能を向上させると共に運動能力と体力の充実を図る。</p> <p>(2) 生徒相互の活動を通し、コミュニケーション能力の向上を図り、互いに尊重し合い助け合い協力し合う心の育成を図る。</p> <p>(3) 公式の試合等に対応できる技能を身につけることにより、自己の達成感と充実を図り、社会に貢献できる人格の育成につなげる。</p> | | | <p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p> | | |
| <p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 学校保健、活動時間、活動内容等本校部活動における安全管理、運営方針等については、年度当初PTA総会等において文書及び口頭により周知徹底する。</p> <p>(2) 練習計画、大会等については、校長、顧問の連名による文書等において周知し、その活動に関する生徒参加等について保護者からの承諾を得て実施する。</p> <p>(3) 生徒の活動状況等については、折に触れ保護者へ連絡する。</p> | | <p>各部の指導方法</p> <p>(1) 放課後並びに休日において決められた練習時間内での活動を遵守する。</p> <p>(2) 準備運動とクールダウン、ストレッチを重視し身体に余分な負荷がかからないよう十分配慮する。</p> <p>(3) 基本動作を重視し、段階的な技術の向上を図る。</p> <p>(4) 生徒の自発性を重視し、互いに意思を交換し技術の向上を図る機会を設ける。</p> | | | <p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p> | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---------------|---|---|--|-----------------------|---|---|--|---------------------|---|---|-----------------------|-------------------|
| 学校行事や定期考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部 | 中間考査 | 期末考査 | 球技大会 終業式 | 始業式 課題テスト | 職場実習 | 強歩大会 中間考査 修学旅行 | 芸術教室 期末考査 | 終業式 | 始業式 | 学年末考査 | 卒業式・終業式 |
| 各種大会の予定 | 春季大会 | 地区大会 | 県大会 | 県総体 | 研修大会 | 地区新人大会 1年生大会 | 秋季大会 AIZUCUP新人大会 | 県新人大会 | インドア大会 | HJツングルス大会 | 研修大会 | 研修大会 |
| 練習試合・遠征等 | 週末に隔週で1日練習試合を設定 | 大会期間を除き週末に1日練習試合を設定 | 大会期間を除き週末に1日練習試合を設定 | 大会期間を除き週末に1日練習試合を設定 | 練習試合 | 大会期間を除き週末に1日練習試合を設定 | 大会期間を除き週末に1日練習試合を設定 | 大会期間を除き週末に1日練習試合を設定 | 大会期間を除き週末に1日練習試合を設定 | 週末に隔週で1日練習試合を設定 | 週末に隔週で1日練習試合を設定 | 卒業生壮行試合 |
| シーズン区分) | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 充実期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング | ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・5、6月の指導内容を融合したトレーニング | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング | ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・10月と同等のトレーニング | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング | ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング | 12、1月の指導内容を融合したトレーニング | ・今まで内容を総括したトレーニング |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|--------------|---|------------|--------|---|-------|--|
| 学校名・部活動名 | 福島県立会津工業高等学校 | 顧問・外部指導者氏名 | 境 偉太・加藤 幸伸 | 電話/FAX | 0242-27-7456 / 0242-29-9239 | Email | |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| <p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をおとして、個性の伸長を図るとともに、社会性・規範意識や基本的な生活習慣を身に付けさせる場とし、社会性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進し、上位大会出場者の増加を図る。</p> | | <p>各部の活動目標</p> <p>(1) 空手道の段位取得を目指し、3年間の部活動で部員全員が初段の段位を取得する。</p> <p>(2) 空手道を未経験で入部してくる部員が多く大会での上位入賞は困難な状況である。しかし、大会時に1回でも多く勝利できるように 競技力向上を目指す。</p> <p>(3) 空手道、武道を通じて礼儀作法、規範意識を習得させ社会性の育成を行う。</p> | | | <p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 空手道の段位取得を目的としている部員、加えて大会での勝利を目的としている部員が混在している。</p> <p>(2) 試験期間中は学業を優先したいと考えている生徒もいる。また、遠方から通学しているため電車時間を意識しながら活動する生徒も所属している。</p> | | |
| <p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、社会で通用する判断力、行動力の育成を促す指導を展開する。</p> <p>(2) 学校全体として部活動に所属する生徒の多くが上位大会に出場する。部活動が活発である校風を活かし生徒たちがより多く上位の大会に出場できるよう、競技力向上を目指した指導を行う。</p> | | <p>各部の指導方針</p> <p>(1) 対話を軸に個々の部員の状況、実力を把握し、それぞれに適した指導を行い、競技力向上を図る。</p> <p>(2) 部員達が自ら考え活動する部活動を行い、主体性の育成を図る。</p> <p>(3) 外部指導者の高い指導力を活かし、競技力向上のみならず、精神、態度などについても指導を行い、社会で通用する人間育成を目指した指導を展開する。</p> | | | <p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 1か月に4日間は休養日を設定し、身体の疲労回復だけではなく、リラックスする機会を与え精神的ストレスを溜めさせないように留意する。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、無理に部活動を強要せず、通院や休養を指示し、身体の障害や疲労蓄積の排除に努める。</p> | | |
| <p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 施設用具の安全点検を定期的に行うとともに、運動直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AED、救命救急法の研修を受講した教員を配置することで、緊急時の対応への備えを万全にする。</p> <p>(3) 各部活動に、複数名の顧問を配置し、部員が悩みを相談しやすい部活動風紀の生成を行う。</p> | | <p>各部の指導内容</p> <p>(1) 空手道の基本、組手、形練習、体力向上を目指した筋肉、および体幹トレーニング、ランニング練習を軸に、部の状況に適した練習を行うことで競技力向上を図る。</p> <p>(2) 競技力向上の指導のみでなく、経験談、精神コントロール手法などについても指導する。</p> <p>(3) 部活動の開始、終了時にしっかりと礼、黙想を行い、武道に取組む姿勢、態度を育成する。</p> | | | <p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、振り返った内容を練習メニューに取り入れ反省を活かして部活動に取組む意識を持たせる指導を行う。</p> <p>(2) 部員と部活動に関する会話のみでなく、学校生活の会話等を通して信頼の向上に努める。</p> | | |
| <p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、保護者への学校アンケートを実施し、教育活動、部活動に関する意見を集約する機会を設定する。</p> | | <p>各部の指導方法</p> <p>(1) 練習時にはマットを敷き公式大会と同等の環境で練習をさせる。</p> <p>(2) 部員同士で部活動について議論させ内容を練習に反映させることで主体性の育成を図る。</p> <p>(3) 外部指導者、顧問が生徒に手本を示し、生徒一人一人に適した指導を行う。</p> <p>(4) 外部指導者の経験談、練習、試合時の精神コントロールについても生徒に適切に伝える。</p> | | | <p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者と顧問で練習メニューを検討し、外部指導者と顧問との間で指導内容の相違がないよう努める。</p> <p>(2) 外部指導者に対し、学校内での部員の状況を伝えるとともに、指導上の留意点がある場合の事前連携を徹底する。</p> | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------------|--------------------------------|---------------------------------------|--|---------------------------------|--|--|---|--|---------------------------------|--|--|-------------------------------|
| 学校行事や定期 審査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 | 中間審査 | 期末審査 強歩大会 | 期末審査 終業式 | 始業式 | | 中間審査 体育祭 | 修学旅行 | 期末審査 終業式 | 始業式 | 期末試験 | 卒業式 終業式 |
| 各種大会の予定 | | | 県大会 東北選手権 | 県総体 | インターハイ | ふくしまで一緒に やろう!プロジェクト | | 県新人大会 ふくしまで一緒に やろう!プロジェクト | | 東北選抜 | | 全国選抜 |
| 練習試合・遠征等 | 数校集まったの 練習試合を設定 | 数校集まったの 練習試合を設定 | | 地元道場主催の 昇段・級審査 | 夏期合宿実施予定 | | 数校集まったの 練習試合を設定 | | 地元道場主催の 昇段・級審査 | | | |
| シーズン区分) | 充実期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | 充実期 |
| 活動内容・ねらい | 開催の大会に向け 各自の技を磨き 大会に備える。 | 次月開催の大会に 向けて各自の技を 磨き大会に備え る。 | 大会で自分の実力 を発揮できるよう 自己の実力把握と 技の確認を行う。 | 審査会で昇段、昇 級できるよう更な 技磨きを行う。 | 筋力、体力を強化 し、組手を戦い抜 く体力を着ける。 また、形において 美しい演武ができ るよう体幹を鍛え る。 | 筋力、体力を強化 し、組手を戦い抜 く体力を着ける。 また、形において 美しい演武ができ るよう体幹を鍛え る。 | 県新人戦で他校に 打ち勝つ実力をつ けるよう、実戦的 な練習内容を行 う。 | 自己の実力を把握 し、得意技を磨く 等、試合で勝ちぬ けるよう調整を行 う。 | 審査会で昇段、昇 級できるよう更な 技磨きを行う。 | 筋力、体力を強化 し、組手を戦い抜 く体力を着ける。 また、形において 美しい演武ができ るよう体幹を鍛え る。 | 筋力、体力を強化 し、組手を戦い抜 く体力を着ける。 また、形において 美しい演武ができ るよう体幹を鍛え る。 | 次年度の県大会に 向けて実戦的な練 習を行う。 |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|----------------|--|---------------------|--------|---|-------|--|
| 学校名・部活動名 | 大沼高等学校・バレーボール部 | 顧問・外部指導者氏名 | 顧問 上遠野晋一・外部指導者 大竹翔太 | 電話/FAX | 電話 0242-54-2151 FAX 0242-54-2694 | Email | |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 健全な精神の涵養。 (2) コミュニケーション能力の育成。 | | 各部の活動目標 (1) 県大会への出場など上位大会への出場。 (2) 規範意識の向上。 (3) あいさつ、礼儀などの社会性の育成。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 初心者が多く厳しい指導に付いていくことが難しい。一方で、大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員もおり、部活動に対する意識に差がある。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 基本的な生活習慣の確立。 (2) 規範意識の向上。 (3) 良好な人間関係を構築する力の育成。 (4) あいさつ、言葉づかい、礼儀等の修得。 | | 各部の指導方針 (1) バレーボールを通して、社会的なルールや規範意識を育てる。 (2) 部活動を通して規則正しい生活習慣を育てる。 | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 週に一度休みを設ける。 (2) 練習中、一定時間ごとに給水や休憩時間を設ける。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 複数の教員が関わり相互にチェックし合う。 (2) 安全確認と緊急対応の確認。 (3) 生徒の様子の観察や監視を怠らない。 | | 各部の指導内容 (1) 技術指導をはじめ、挨拶や規律を守るといった社会性を高める指導を行う。 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 生徒の輪の中に入って直接指導を行うことで、コミュニケーションを図る。また部活動の始めや終わりに指導者が話をする時間を設ける。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 保護者会の実施。 | | 各部の指導方法 (1) 生徒と積極的に関わることで、コミュニケーションを図りながら、わかりやすい言葉で指導する。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) あらかじめ練習計画を立て、事前に連絡する。 (2) 外部指導者と顧問との間で連絡を密にし、目標を共有する。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------------|----------|----------|
| 学校行事や定期 検査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部 | 強歩大会 中間考査 | 期末考査 | スポーツ大会 終業式 | | | | | | | | |
| 各種大会の予定 | | インターハイ地区 大会、県大会 | 総合体育大会地区 大会 | | | 教会主催大会 | | | 新人戦地区大会 | 新人戦県大会 | | |
| 練習試合・遠征等 | 練習試合、遠征 | 練習試合、遠征 | 練習試合、遠征 | 練習試合、遠征 | 練習試合、遠征 合宿 | 練習試合、遠征 | 練習試合、遠征 | 練習試合、遠征 | 練習試合、遠征 | 練習試合、遠征 合宿 | 練習試合、遠征 | 練習試合 |
| シーズン区分) | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | 基礎練習 応用練習 大会に向けての練習 | 基礎練習 応用練習 大会に向けての練習 | 基礎練習 応用練習 大会に向けての練習 | 体力作り 基礎練習 応用練習 規範意識の向上 | 体力作り 基礎練習 応用練習 規範意識の向上 | チーム作り | チーム作り | チーム作り | チーム作り | 個々の技術の向上 | 個々の技術の向上 | 個々の技術の向上 |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|--------------------|---|--------------------|--------|---|-------|------------------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立新地高等学校・バレーボール部 | 顧問・外部指導者氏名 | 顧問：高野由起子 外部指導者：島紘一 | 電話/FAX | 0244-62-2009/0244-62-5021 | Email | takano.yukiko@ei63.fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 部活動をととして、生徒の運動技能と体力の向上を図るとともに、県大会出場を目標としながら、生涯を通じて運動に親しむ資質や能力を育てる。 (2) 地域の指導者と部活動顧問が連携・協力しながら、生徒一人ひとりの性格・行動特性等にに応じた指導をし、協調性や忍耐力等を身に付けさせ、豊かな心をはぐくむ。 | | 各部の活動目標 (1) 地区大会3位と県大会出場を目指し、部員が技術向上しながら協力したチームワークづくりができるようにする。 (2) バレーボールを通して、個々の部員の性格や行動特性等を尊重しつつも、社会人で大切な規範を認識させるように指導していく。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 3年生が1人が引退し、2年生部員がおらず、1年生7人で活動しているが、能力が高い部員とあまり高くない部員の差が大きい。 (2) ケガや持病持ちの部員が多く、声を掛け合い、助け合いながら協力して活動するよう指導する。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 各部とも県大会出場を目標に指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 生徒会が各部の出席状況を調査しながら部活動の活性化を図り、指導者は部員とのコミュニケーションを密にすることで、部員の発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。 | | 各部の指導方針 (1) 部員が少なく、部員各自のモチベーションが目標に向けての士気の高揚に大きく関わってくるので、常に目標の確認をし、同じ目標に向かって練習できるように指導する。 (2) とにかく欠席をせず、限られた時間を有効に使って練習する。また、日頃から部員とのコミュニケーションを大切に、気持ちの軌道修正をしながら目標に向かって指導していく。 | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 練習試合等がなければ、週休日のいずれか1日を休養日とする。月曜日と木曜日は3キロ走と筋トレを行う。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 | | 各部の指導内容 (1) 部員一人ひとりの能力の差が大きいので、お互いにそれを認識させ、チームとして向上すべき課題を中心に練習に取り組ませる。 (2) 始まる時間、終わる時間と練習する内容を指示し、その指示した時間内に課題が終わるようにメリハリをつけて練習に取り組ませる。 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 大会後に個人の反省・課題、チームの反省・課題を記述させ、みんなの前で発表し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 顧問が部員と面接した内容を外部指導者に報告し、アドバイスを受け、指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。 | | 各部の指導方法 (1) 年度の初めや各大会後、3年生が引退した後にミーティングを行い、目標を確認し、自分たちの問題や課題について検討していく。 (2)モチベーションが下がった部員に対して面接を行い、自分が今できることとできないことを考えさせ、できることから取り組ませる。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日前日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から今までの豊かな経験に基づいた練習内容や練習方法等の情報を入手する。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------------|--|---|---|--|--|---|--|--|---|---|---|---|
| 学校行事や定期 考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 部活動登録 | 鹿狼山登山 生徒総会 中間考査 | 期末考査 新体力テスト | 終業式 前期スポーツ大会 | リーダー研修会 | | 中間考査 | 体育祭 110周年記念事業 期末考査 | 終業式 | 部活動顧問会 | 期末考査 | 卒業式・修了式 |
| 各種大会の予定 | | 高校体育大会地区 大会 | 県高校体育大会 県総地区大会 | 県総体県大会 | | 協会主催選手権大 会 | | | 地区新人大会 | 県新人大会 | | |
| 練習試合・遠征等 | 練習試合を設定で きない | GWに1日練習 試合を設定 | 大会前に1日練習 試合を設定 | 大会前に1日練習 試合を設定 | 夏季強化練習 夏休みに合宿を設 定 | 大会前に1日練習 試合を設定 | 月に1度練習試合 を設定 | 月に1度練習試合 を設定 | 大会前に1日練習 試合を設定 | 大会前に1日練習 試合を設定 | | |
| シーズン区分) | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 充実期 | 試合期 | 充実期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | ・各ポジションの 技能トレーニング ・試合に向けて フォーメーション の確認と、課題解 決のためのトレー ニング | ・大会に向けての チームづくり ・大会をととして でてきた課題解決 に向けての練習 | ・大会に向けての チームづくり ・大会をととして でてきた課題解決 に向けての練習 | ・大会に向けての チームづくり ・大会をととして でてきた課題解決 に向けての練習 ・新チームに向け ての個人の技術向 上のためのトレー ニング | ・新チームのポジ ション決めと個人 技能の習得 ・フォーメーション の決定とチーム 練習 ・筋力、全身持久 力の向上を目指し たトレーニング | ・大会に向けての チームづくり ・大会をととして でてきた課題解決 に向けての練習 ・ボール操作を高 めるトレーニング | ・各自で高めたい 技能の習得に向け たトレーニング ・筋力、全身持久 力の向上を目指し たトレーニング | ・大会をととして 見えてきたチーム 課題の解決に向け たトレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向け たトレーニング | ・大会に向けての チームづくり ・大会をととして でてきた課題解決 に向けての練習 | ・大会に向けての チームづくり ・大会をととして でてきた課題解決 に向けての練習 | ・敏捷性、瞬発力 の向上を目指した トレーニング ・筋力、全身持久 力の向上を目指し たトレーニング | ・敏捷性、瞬発力 の向上を目指した トレーニング ・筋力、全身持久 力の向上を目指し たトレーニング |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|---|---------------------|---|--------------------------------|--------|--|-------|--------------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立相馬農業高等学校・ボクシング部 | 顧問・外部指導者氏名 | 顧問 野口 修 ・ 村田 和文 外部指導者 高橋 弘典 | 電話/FAX | 0244-23-5175 / 0244-23-1483 | Email | assist.soma-ah@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| <p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 運動部の活性化を通して、体力や運動技能の向上を図るとともに、生涯にわたりスポーツに親しむ資質や能力を育てる。</p> <p>(2) 共通の課題に自発的、自治的に取り組むことで、自主精神や自治精神を養うきっかけとなり、高等学校時代を通じて人生の基本となる考え方を形成する。</p> | | <p>各部の活動目標</p> <p>(1) ボクシング競技を通して、望ましい心身の発達をはかり、体力の向上と健康の保持増進を目指す。</p> <p>(2) ボクシング競技を通して、互いの心をくみとり合い、深い人間理解に努めるとともに、周囲の人に対する思いやりの精神を養う。</p> | | | <p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 部員数は少ないものの、部員一人一人の練習に対する熱意は強く、外部指導者に対する部員の信頼も厚い。</p> <p>(2) 技術的に未熟ではあるが、向上心が強く、県大会での勝利と東北大会への出場を目標に努力している。</p> | | |
| <p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 1学年は全員を部活動に加入させ、高校生としてふさわしい心身の発達を促すような部活動指導を行う。</p> <p>(2) 活動目標や指導方針及び年間活動計画を提示し、部員が見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> | | <p>各部の指導方針</p> <p>(1) 部員とのコミュニケーションを図りながら、ボクシング部の一員として所属感や連帯感を深めることができるように働きかける。</p> <p>(2) 科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、各部員の課題に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p> | | | <p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 外部指導者の指導日(主に土・日)は、平日の練習に比べ練習量が多くなりやすいため、翌日曜日は休養日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p> | | |
| <p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 施設、用具等の安全管理を徹底するとともに、各部員の心身の状態を把握することで、事故防止に努める。</p> <p>(2) 緊急時への対応方法を生徒にも理解させ、顧問や外部指導者への報告・連絡・相談を密に行うように指導する。</p> <p>(3) 学級担任や養護教諭、スクールカウンセラーなど、校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> | | <p>各部の指導内容</p> <p>(1) ボクシング競技における基礎的な技術やルールを身につけさせる。</p> <p>(2) ボクシング競技を通して、礼節を重んじ相手を敬う精神を養う指導を行う。</p> <p>(3) 外部指導者とも連携し、各階級に合わせたトレーニングメニューの設定や、食事・栄養面の指導を行う。</p> | | | <p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 毎日の練習内容と各自の課題を日誌に記録し、顧問・外部指導者の両者が目を通して指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 顧問・外部指導者間で部員の指導上の課題を共有し、早期解決に努める。</p> | | |
| <p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p> | | <p>各部の指導方法</p> <p>(1) 主に土・日に外部指導者を招き、指導を行う。その際に、顧問と外部指導者として打ち合わせを行い、各部員の現状や課題に応じた平日の練習メニューを設定する。</p> <p>(2) 毎日の練習内容や気付いたこと、課題などについて練習日誌に記録させ、顧問・外部指導者が確認をし、各部員に個別指導をする。</p> | | | <p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p> | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------------|---|---------------------------------|---|---------------------------------|---|---|---|---------------------------------|---|---|---|---|
| 学校行事や定期 考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介・新入 部員オリエンテー ション | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 | 始業式 | 中間考査 | 相農祭 | 期末考査 | 終業式 | 始業式 | 学年末考査 | 卒業式・終業式 |
| 各種大会の予定 | | 県大会(高体連) | 東北大会(高体連) | 県総大・全国イン ターハイ | 東北総体 | | 国体・県新人戦 | | | | | |
| 練習試合・遠征等 | | | 県下合同練習 | 県下合同練習・県 下合同合宿 | 県下合同合宿 練習試合 | 県下合同練習 | 県下合同練習 | 県下合同練習 | 県下合同合宿 練習試合 | 県下合同練習・東 北新人大会 | 県下合同練習 | 県下合同合宿 全国選抜大会 |
| シーズン区分 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 充実期 | 試合期 | 充実期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | ・試合に向けた実 践的なトレーニング ・個別の課題に応 じたトレーニング | ・試合に向けた実 践的なトレーニング ・体重の調整 | ・試合に向けた実 践的なトレーニング ・個別の課題に応 じたトレーニング | ・試合に向けた実 践的なトレーニング ・体重の調整 | ・敏捷性、瞬発力 の向上を目指した トレーニング ・筋力、全身持久 力の向上を目指 したトレーニング | ・敏捷性、瞬発力 の向上を目指した トレーニング ・筋力、全身持久 力の向上を目指 したトレーニング | ・試合に向けた実 践的なトレーニング ・個別の課題に応 じたトレーニング | ・試合に向けた実 践的なトレーニング ・体重の調整 | ・敏捷性、瞬発力 の向上を目指した トレーニング ・筋力、全身持久 力の向上を目指 したトレーニング | ・敏捷性、瞬発力 の向上を目指した トレーニング ・筋力、全身持久 力の向上を目指 したトレーニング | ・敏捷性、瞬発力 の向上を目指した トレーニング ・筋力、全身持久 力の向上を目指 したトレーニング | ・敏捷性、瞬発力 の向上を目指した トレーニング ・筋力、全身持久 力の向上を目指 したトレーニング |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|---|-------------------|---|-------------------|--------|---|-------|-----------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立いわき総合高等学校・剣道部 | 顧問・外部指導者氏名 | 顧問・井上 理 指導者・佐藤 雅春 | 電話/FAX | 0246-26-3505 / 0246-26-8273 | Gmail | inoue.osamu@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| <p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して総合的なコミュニケーション能力を育成し、生徒の自律的な活動と主体的な規律を涵養する。</p> <p>(2) 各種運動の合理的な実践により生涯を通して継続的に運動できる能力を養う。</p> | | <p>各部の活動目標</p> <p>(1) 剣道の鍛練や修養の中で「礼節を尊ぶ」ことを学び、お互いを敬う心や、礼法指導によって、節度ある生活態度を身につけ、「交知知愛」の輪を広げることを目指す。</p> <p>(2) 日頃の練習の成果として昇段審査を受審し、個々の技術や練度に応じた段位の取得を目指す。</p> | | | <p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 大会で勝ちたいと思っている生徒と、剣道の段位が取得しただけの生徒が混在しており、練習に対する意識に差がある。</p> <p>(2) 長時間かけて通学している生徒もいるため、平日の練習終了時間が遅くならないよう配慮する。</p> | | |
| <p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 年間の活動計画、並びに月間の活動計画を明確にし、生徒らが見通しをもって活動に取り組めるように配慮する。</p> <p>(2) 生徒だけでなく顧問教員も指導者から剣術指導を受けることにより、教員自身の剣術指導の向上をはかる。</p> | | <p>各部の指導方針</p> <p>(1) 剣道部としての日々の活動の中で、基本的な礼法指導や、規律のとれた団体行動、ならびに豊かな人間性を育成できるようにする。</p> <p>(2) 「我以外皆師」の精神のもと、生徒がお互いの改善すべき部分を指摘し合い、全体で技術の向上が図れるようにする。</p> | | | <p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 一か月以内に公式大会がない場合は一週間に2日を休養日とし、公式大会がある場合でも、最低一週間に1日を休養日として、心身の疲労回復に充てる。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員には通院を指示し、練習中に不自然な挙動を見せた場合も、早めの対処を行えるように努める。</p> | | |
| <p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 施設設備の充実や、施設管理の保全に努め、活動中における事故を未然に防ぐ。</p> <p>(2) 部活動顧問はAED講習や救急救命法講習会などに参加し、緊急時への対応を万全にする。また、緊急時には管理職に連絡し、状況を直ちに判断できるよう体制を整備する。</p> <p>(3) いじめ防止対策推進委員会、服務倫理委員会を設置し生徒の安全に対する意識を向上させる。</p> | | <p>各部の指導内容</p> <p>(1) 指導者をはじめとする多くの先生方から稽古をいただき、技術の上達をはかる。</p> <p>(2) 道場や部室などを公共の空間として認識させ、自ら進んで整理・整頓・清掃を行えるように指導する。</p> <p>(3) 昇段審査前には外部の指導者のもと「日本剣道形」の稽古および、筆記試験に向けた勉強会を設定する。</p> | | | <p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 試合の後はミーティングを開き、成果や課題を全員で話し合い、指導・支援の改善に努める。</p> <p>(2) 教員自ら生徒と剣を交え、共に汗を流すことで、教員とのコミュニケーションの取りやすい環境を作る。</p> | | |
| <p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) PTA 総会、部活動保護者会などで、各部における活動目標について説明する機会を設ける。</p> <p>(2) 休日練習の際には保護者も参加できる機会を作り、日ごろの活動状況を理解してもらう。その際には、顧問や外部指導者との情報交換ができるよう配慮する。</p> | | <p>各部の指導方法</p> <p>(1) 初心者向けの基礎的な指導は、有段者の生徒を中心に行い、より実践的な技の指導については高段者の外部指導者が元立ちとなって、個別に対応する。</p> <p>(2) 試合を撮影した動画などを用いてミーティングを行い、各々が重点的に練習すべき箇所を指摘し合い、日々の稽古に反映させる。</p> | | | <p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問と打ち合わせを行い、それぞれの部員の学校生活における状況などを報告する。</p> <p>(2) 外部指導者の所属する内郷高校剣道部 OB 会に出席し、大勢の先生方から剣術指導をするうえでの助言をいただく。</p> | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------------|-----------------------------|------------------------------|---|---|------------------------------------|--|---|---------------------------|----------------------------------|----------------------------------|--|---|
| 学校行事や定期 考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部 | | 前期中間考査 | 終業日 | 始業日 | 前期期末考査 前期終業式 | 後期始業日 修学旅行 | | 後期中間考査 | 終業日 | 始業日 | 後期期末考査 卒業式 終業式 |
| 各種大会の予定 | | 高体連地区大会 | 高体連県大会 県総体地区大会 | 県総体県大会 | 剣道一級審査会 | 新人戦地区大会 前期昇段審査会 | | | 新人戦県大会 | 県選抜地区大会 | 県選抜県大会 | 後期昇段審査会 |
| 練習試合・遠征等 | 春季錬成会 | 小野高校錬成会 | | | 夏季強化錬成会 強化合宿 中高合同練習会 | | | | | 元旦稽古会 | | 春季錬成会 |
| シーズン区分) | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | 地区大会に備え、練習試合などを実施し、各々の技を磨く。 | 地区大会、県大会に向けて団体戦の戦い方を中心に練習する。 | 3年生の引退とともに、スムーズな新体制の移行ができるよう、2年生への引継ぎを行う。 | 夏季の長時間練習に備え、基本的体づくりを目指し、打ち込み稽古・追い込み稽古を重点的に行う。 | 合宿や錬成会を通して、数多くの実践経験を積み、大会・審査会に備える。 | 昇段審査を受審する生徒は通常の練習のほかに、日本剣道形の指導を指導者から受ける。 | 出稽古などを実施し、新たな技術を体得できるようにする。技の稽古・掛り稽古を中心に行い、技の切り替えを早くできるようにする。 | 新人戦県大会に備え、練習試合などで実践経験を積む。 | 打ち込み稽古・追い込み稽古に重点をおいた基礎体力の向上を目指す。 | 打ち込み稽古・追い込み稽古に重点をおいた基礎体力の向上を目指す。 | 昇段審査を受審する生徒は通常の練習のほかに、日本剣道形の指導を指導者から受ける。 | 部員の一人一人が新入生の指導ができるよう、稽古の方法や理念について学びながら日々の稽古を行う。 |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|-------------------|---|---------------------------|--------|---|-------|------------------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立いわき光洋高等学校 剣道部 | 顧問・外部指導者氏名 | 顧問 志賀久敏 遠藤 香 ・ 外部指導者 鈴木順一 | 電話/FAX | 0246-28-0301/ 0246-28-0311 | Email | school@iwakikoyo-h.fks.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、協調性を伸ばし、公正さと規律を導ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自律的な活動を促進する。 | | 各部の活動目標 (1) 剣道を通じて、心身の鍛錬を行い、剣道の技術と人間性の向上を目指す。 ア 基本的な生活態度を身につける。 イ 自立した強い意思を身につける。 ウ 協調性を身につける。 エ 文武両道。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 県大会で上位に進みたいと考えている者もいるが、多くは剣道の技術・精神の向上を重点に練習に励んでいる。 (2) 学習と部活動の両立を図りたいと考えている生徒がほとんどで、審査前などは部活動を休みとし部全体で学習時間を確保している。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。 | | 各部の指導方針 (1) 剣道は「剣の理法の修練による人間形成の道」であり、この理念に基づいて清く正しくたくましい人間としての育成を目指す。 (2) 相手を尊重する態度を身につけさせ、練習や試合をした相手に敬意を払い、感謝の気持ちを持つ態度の育成を目指す。 (3) 瞬発力、敏捷性、巧緻性などの体力を総合的に高めるとともに、克己心などの精神力を高めることを目指す。 | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 練習前に部員の体調を把握したり、体調不良や怪我を確認したりしながら、休養や通院を指示し、疲労回復や健康維持に努めている。 (2) 活動計画においては、1週間に1日(原則として日曜日)は休養日を設けて疲労蓄積の排除に努めさせる。また、大会直後は休養日として疲労回復に配慮している。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 | | 各部の指導内容 (1) 剣道というスポーツの本質を理解し、常に人格形成と剣道技術の向上を目指した指導を行う。それぞれの能力に応じた指導を行い、剣道の理論に基づいた指導を行う。 (2) 日本剣道の「形」を理解させ、稽古でも十分活用できるように指導する。 (3) 稽古を行う環境の改善や保健衛生面にも留意した活動ができるよう指導する。 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 試合直後は、「振り返りシート」を配付して部全体または各自の成果と反省を記入させ、指導内容・方法の改善に活かしている。 (2) 部顧問から意識的に部員に声をかけ、問題点などを把握し、外部指導者や保護者と連携して対応している。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部保護者会総会において、顧問やコーチから活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。 | | 各部の指導方法 (1) 技能習熟の程度に合わせた適切な練習内容、時間、反復練習などを行い、剣道の基礎となる動作や正しい打突を自得させる。間合いの取り方や打突の正確さ、速さなどを重点に気剣体の一致した技が出せるよう「剣の理法」を自得させる。 (2) 稽古の中で剣道の礼儀を重んじた行動を心がけさせ、相手を尊重する態度や感謝の気持ち、また自分を律する態度を自得させる。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 部顧問と外部指導者の間で指導内容についての打合せを適宜に行い、練習メニューの改善に努めている。 (2) 部顧問が外部指導者に、部員の生活状況等の情報を連絡し、指導の参考情報として提供している。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------------|--|--|--|---|---|---|---|--|--|---|---|---|
| 学校行事や定期 考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動編成 | 生徒総会 中間考査 | 期末考査 | 終業式 文化祭(公開) | 始業式 | 修学旅行 | 中間考査 球技大会 | 期末考査 | 終業式 | 始業式 | 学年末考査 | 卒業式・終業式 |
| 各種大会の予定 | | 県高校体育大会地区予選会 | 県高校体育大会地区総体 | 県総体 | | 県新人体育大会地区大会 | 県新人体育大会 | | 高校選抜優勝大会地区大会 | 高校選抜優勝大会県大会 | | |
| 練習試合・遠征等 | いわき地区錬成会 地区中高合同錬成会 | 小野高校合同錬成会 | | 地区合同錬成会 | 県高校錬成会 夏期合宿 | 昇段審査会 | | | 他校との合同錬成会の実施 | 他校との合同錬成会の実施 | 昇段審査会 | 県合同錬成会 他校との合同錬成会の実施 |
| シーズン区分) | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | ・各部員の心技体の充実に向けた練習 ・地区錬成会等を通じた技能向上 ・新入部員を迎えて、組織力の強化 | ・大会に向けた心技体を高める練習 ・大会の反省を踏まえ各自の課題解決のための練習 ・各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 | ・大会に向けた心技体を高める練習 ・大会の反省を踏まえ各自の課題解決のための練習 ・各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 | ・基礎技術の鍛錬、気剣体一致を目指した打突の修練 ・各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 | ・新チームとしての課題を見据えた練習 ・各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 | ・大会に向けた心技体を高める練習 ・各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 | ・大会に向けた心技体を高める練習 ・大会の反省を踏まえ各自の課題解決のための練習 ・昇段審査会に向けた「形」の修得 | ・大会の反省を踏まえ各自の課題解決のための練習 ・各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 | ・大会に向けた心技体を高める練習 ・大会の反省を踏まえ各自の課題解決のための練習 ・各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 | ・大会に向けた心技体を高める練習 ・大会の反省を踏まえ各自の課題解決のための練習 ・昇段審査会に向けた「形」の修得 | ・昇段審査会に向けた「形」の修得 ・基礎技術の鍛錬、気剣体一致を目指した打突の修練 ・各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 | ・基礎技術の鍛錬、気剣体一致を目指した打突の修練 ・各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|-------------------|--|------|--------|--|-------|--|
| 学校名・部活動名 | 福島県立いわき海星高等学校・柔道部 | 顧問・外部指導者氏名 | 遊佐善慈 | 電話/FAX | 090-5406-2819 | Email | |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 部活動を通して、健全な心身の育成を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、規律と公共心を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。 | | 各部の活動目標 (1) 柔道部の活動を通して、健全な心身の育成を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、規律と公共心を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 男子部員、女子部員一人一人のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び、部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的、自発的な活動を促進する。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 部員数の減少により、練習時間と学校の補習や実習が重なった時に、乱取り等の練習が効果的にできない場合がある。 (2) バスで通学している部員が複数いるため、バスの時刻に間に合うように練習を終了できるよう希望している。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。 | | 各部の指導方針 (1) 柔道部の活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しを持って活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。 | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、休休日のいずれか1日を休養日とする。休休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 | | 各部の指導内容 (1) 各上位大会への出場、入賞を目指し、立技、寝技の基本的な技能を習得させると同時に、科学的根拠に基づいた筋力トレーニングを実施し、健全な心身の育成を図る。 (2) 練習手を確保し、効果的な練習を実施するために、他校との合同練習や合宿等の機会を適宜設けられるようにし、視野を広く持った豊かな人間性を育成出来るようにする。 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 顧問と副顧問との連携を密にし、複数の教員で部員との対話を積極的に図るようにし、部員に対する共通理解を深める。 (2) クラス担任とも連携し、部内に留まらず普段の部員の学習の状況や学校生活の早期把握と早期対応に努める。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 学校のホームページや生徒会誌等を活用して、部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。 | | 各部の指導方法 (1) 打ち込み、乱取りを通して立技、寝技の基本的な技能を顧問、コーチの適切な助言の下に身につけさせると同時に、綱やベンチプレス等の器具を用い、科学的根拠に基づいた体幹、筋力トレーニングを施し、健全な心身の育成を図る。 (2) 近隣の学校と連携し、合同練習や合宿等を適宜実施し、多人数で効果的な練習が出来るよう配慮することで、他者を尊重し、規律と公共心を尊ぶ態度を養う。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠や豊富な経験に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------------|---|--|--|--|---|--|---|--|--|---|---|---|
| 学校行事や定期 考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動編成 | 中間考査 | 修学旅行 | 期末考査 スポーツ大会 終業式 | | | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 | | 学年末考査 | 卒業式 終業式 |
| 各種大会の予定 | | 地区高校体育大会 地区ジュニア大会 | 県高校体育大会 地区総合体育大会 県ジュニア大会 | 県総合体育大会 全国高校大会 | 全国高校大会 | 全日本ジュニア大会 地区新人大会 | 国民体育大会 | 県新人大会 地区選手権大会 | 全国高校選手権県 予選 | 東北選手権 | 県選手権大会 | 全国高校選手権 |
| 練習試合・遠征等 | 遠征合宿 1泊2日 | 大会期間を除き 週末に1日合同練習 を設定 | 大会期間を除き 週末に1日合同練習 を設定 | 大会期間を除き 週末に1日合同練習 を設定 | 夏季遠征 2泊3日 | 大会期間を除き 週末に1日合同練習 を設定 | 大会期間を除き 週末に1日合同練習 を設定 | 大会期間を除き 週末に1日合同練習 を設定 | 大会期間を除き 週末に1日合同練習 を設定 | 週末に隔週で1日 合同練習を設定 | 週末に隔週で1日 合同練習を設定 | 週末に隔週で1日 合同練習を設定 |
| シーズン区分) | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 充実期 | 試合期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | ・体幹、全身の筋力の向上を目指したトレーニング ・寝技、立技の技能を高めるためのトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・体幹、全身の筋力の向上を目指したトレーニング ・寝技、立技の技能を高めるためのトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・体幹、全身の筋力の向上を目指したトレーニング ・寝技、立技の技能を高めるためのトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング | ・体幹、全身の筋力の向上を目指したトレーニング ・寝技、立技の技能を高めるためのトレーニング | ・体幹、全身の筋力の向上を目指したトレーニング ・寝技、立技の技能を高めるためのトレーニング | ・体幹、全身の筋力の向上を目指したトレーニング ・寝技、立技の技能を高めるためのトレーニング |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|--------------------|---|-------|--------|--|-------|----------------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立いわき海星高等学校 ヨット部 | 顧問・外部指導者氏名 | 佐藤 純一 | 電話/FAX | 080-5572-3653 | Email | 'jun_2_8_1984@yahoo.co.jp' |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。 | | 各部の活動目標 (1) 高体連大会、国民体育大会に重点を置き、基礎的技術を身につけ進む (2) 各遠征、合宿等で他県選手との交流を図りながら自身の基本的生活を身につける。 (3) 準備、片付けの行動は迅速に行う事で練習時間の確保 (4) 夢を持てる人材育成 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。 (2) 定期考査等の直前、及び資格取得試験前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。 | | 各部の指導方針 (1) 安全を第1に考える(気象予測、自身の体調管理) (2) コミュニケーションをまめにとり、約束を守り信頼関係を深める (3) 技術の向上により自信をつけ、日常生活でも幅を持った行動が出来るように促す。 | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 | | 各部の指導内容 (1) 安全運営のため、気象予報や観天望気を欠かさず行い、その日の活動メニューも変わる場合もある。 (2) 基本的には海に出ているいろいろなパターンで練習を重ねていく。 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導者が目を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。 | | 各部の指導方法 (1) その生徒に合ったアドバイス、その日の天候にあったポイントを明確に外部指導者と打ち合わせをし、その日の練習を行い、練習後には、反省課題をノートに書き読み上げ、その都度アドバイスを行い次の練習に備えることを継続する | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---------------|---|---|--------------------------------------|--|---|---------------------------|---|---|--|----------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|
| 学校行事や定期考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動編成 | 中間考査 | | 期末考査 終業式 | | | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 | | 学年末考査 | 卒業式 終業式 |
| 各種大会の予定 | | | 県大会 東北大会 | 県総合体育大会 | 全国高校大会 | 県新人大会 | 国民体育大会 | 種目別全日本大会 | | | | |
| 練習試合・遠征等 | | 大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定 | 大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定 | 大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定 | 強化合宿 | 強化合宿 | 大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定 | 大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定 | 大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定 | 週末に隔週で1日 練習試合を設定 | 週末に隔週で1日 練習試合を設定 | 強化合宿遠征 |
| シーズン区分) | 準備期 | 準備期 | 試合期 | 試合期 | 試合期 | 調整期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 | 準備期 |
| 活動内容・ねらい | 器具の準備と効率化を考え整理をする。新入部員の指導と現役のスキルアップと目標の明確化を図る | 各練習会で風や天候に合わせて、帆走練習及びミーティング、基礎体力トレーニングを行う 新入部員は、ヨットレースの理解を図る | 実践レースでの反省、課題を明確にし、その場面においてスキルのアップを図る | 基礎技術を確認し遠征にむけて準備をする ジュニアヨット教室など各種イベントへの参加協力 | 実践練習を主に県外からも外部指導者を招き、県外有力選手と実践練習を行い、親睦を図る | 団体前における調整、全体的な基礎レベルアップを図る | レースにむけて、全体的なスキルアップを図る。 現地海上の風や潮流のシフトパターンをフリーフィングし実践でのシュミレーションを繰り返す | 特に風が強まっていくシーズンなので、特に安全面を注ぎながら強風域の中を安定した走りが出来ることを目指す | 有酸素系トレーニングを週2回行い筋肉の増加を図る 平日の日暮れが早くなるため、艇の準備、片付けをより早く行うことにより練習時間の確保、自身の俊敏性を身につける | 冬季練習により強い精神力を身につけ、フィジカル面も強化を継続する | 冬季練習により強い精神力を身につけ、フィジカル面も強化を継続する | 強風域のレースに標準を置き大会へ参加する。来期へむけ、課題を再確認する |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|---|------------|--|-------------------|--------|---|--------|--|
| 学校名・部活動名 | 磐城高等学校 柔道部 | 顧問・外部指導者氏名 | 顧問 加藤明 外部指導者 吉田信勝 | 電話/FAX | 0246-23-2566 / 0246-23-5074 | E-mail | |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| 学校全体の活動目標 (1) 文武両道を目指して、学業と部活動のバランスを考え、両立することを促進する。 (2) 指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係を築く。 (3) 指導者と部員の目標を明確にし、自主的・自発的な活動を行う。 | | 各部の活動目標 (1) 学業と部活動の両立を目指す。 (2) 県大会出場を目標に、日々の練習を自分たちで考え、工夫して行えるようにする。 | | | 部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員が在籍している。 (2) 大学進学を目標に、日々の学習時間を確保したいと考えている部員が多い。 | | |
| 学校全体の指導方針 (1) 活動目標や指導の方針及び年間の活動予定を明確に示すことで、部員が見通しをもって学業と部活動に計画的に取り組みできるようにする。 (2) 部員の発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。 | | 各部の指導方針 (1) 活動予定を提示し、練習と休養の計画を明確にすることで、学業と部活動の両立を計画的に行えるようにする。 | | | 部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、日曜日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、心身の健康に留意する。 | | |
| 事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に相談窓口を設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。 | | 各部の指導内容 (1) 日々の練習内容や予定を自分たちで考え、工夫しながら活動できるようにする。 (2) 外部指導者やOBなどの助言をいかし、日々の練習のさらなる工夫にいかせるようにする。 | | | 部員とのコミュニケーションの方策 (1) 顧問が意識的にコミュニケーションの機会を設け、部員の悩みや指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。 (2) 少人数であることから、生徒の学校生活や成績についても把握し、声かけを行うようにする。 | | |
| 保護者等への説明機会 (1) 部活動保護者会において、顧問から活動目標、年間計画等について説明する機会を設け、保護者との連携を密にする。 (2) 大会後や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。 | | 各部の指導方法 (1) 週単位などで予定を考えさせるようにし、家庭学習も部活動も計画的に行えるようにする。 (2) 技術指導を外部指導者やOBなどからしてもらい、自分たちで考えて練習の中に取り入れられるようにする。 | | | 指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から技術指導を行ってもらい、日々の練習にくみこめるようにする。 | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------------|---------------------------|-----------------------|---------------------------------|---------------------------------|--|---------------------------------|-----------------------|---------------------------------|---------------------------------|-------------------------|-------------------------|-----------------------|
| 学校行事や定期 考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 部活動編成 | | 前期中間考査 | 高月祭(文化祭) | | 前期期末考査 始終業集会 | 体育大会 | 後期中間考査 マラソン大会 | | | 後期期末考査 | 卒業式 終業式 |
| 各種大会の予定 | | 地区高校大会 | 県高校大会 総体地区大会 | 総体県大会 | | 地区新人大会 | | 県新人大会 地区柔道選手権 | 県柔道選手権 | | | |
| 練習試合・遠征等 | | | | | 夏季遠征 2泊3日 | | | | | | | |
| シーズン区分) | 準備期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 充実期 | 試合期 | 充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 充実期 |
| 活動内容・ねらい | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング | ・組み手や乱取りなど、実践的なトレーニング | ・大会をとおして見えてきた各自の課題の解決に向けたトレーニング | ・大会をとおして見えてきた各自の課題の解決に向けたトレーニング | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・実践形式の錬成会でのトレーニング | ・大会をとおして見えてきた各自の課題の解決に向けたトレーニング | ・組み手や乱取りなど、実践的なトレーニング | ・大会をとおして見えてきた各自の課題の解決に向けたトレーニング | ・大会をとおして見えてきた各自の課題の解決に向けたトレーニング | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング | ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング | ・組み手や乱取りなど、実践的なトレーニング |

事業計画書(様式2)

| | | | | | | | |
|--|-------------------|--|-------------------------|--------|--|-------|------------------------|
| 学校名・部活動名 | 福島県立勿来工業高等学校・テニス部 | 顧問・外部指導者氏名 | 顧問：金子亜希子・青木毅 外部コーチ：西原健一 | 電話/FAX | Tel 0246-63-5135 fax 0246-62-7358 | Email | kaneko.akiko@fcs.ed.jp |
| 学校全体に関わって | | 各部の計画 | | | 部員の現状・配慮事項等 | | |
| <p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通じて、生徒の心・技・体のバランスのとれた発達を図り、他者を尊重する精神や公正・規律を重んじる態度を培い、豊かな人間性を育む。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動の方針を示すとともに、部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p> | | <p>各部の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通じ、技術力の向上を図ると共に、他者との気持ちのやりとりを通して社会に適応できる協調性を身につける。</p> | | | <p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 大会で勝りたい、上位に入賞を果たしたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。</p> <p>(2) サーブやボレー等の技術的な部分で不安を持つ生徒が多い。</p> | | |
| <p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p> | | <p>各部の指導方針</p> <p>(1) 部員の個人的な目標と部全体としての目標を立てさせ、そのためにどうすれば良いかを日々の練習を通して考えさせる。</p> <p>(2) 基礎体力を養うとともに、個に応じた技術の向上に努める。</p> <p>(3) 部内において、部員同士が何でも話せる雰囲気作りを行う。</p> | | | <p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、日曜日を休養日とする。土・日・祝日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。</p> <p>(2) 体調等に不安のある部員に対しては、早めの通院や休養を指示し、体へのダメージを最小限にとどめる。</p> | | |
| <p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AED使用方法や救命救急法についてリーダー研修会(生徒会・部活動・学級)を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p> | | <p>各部の指導内容</p> <p>(1) 技術の向上のため、反復練習を継続的に実施させる。</p> <p>(2) 事故防止を念頭に置き、ランニングやストレッチ等を行い基礎体力の向上に努める。</p> | | | <p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、弱点や課題を見つけ、その後の練習で改善できるよう支援する。</p> <p>(2) 校内での生活の様子も確認するように心がける。</p> | | |
| <p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) PTA総会等を活用し、保護者に向けて校長から教育目標及び活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度末等に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p> | | <p>各部の指導方法</p> <p>(1) 技術の向上を図るため、外部コーチから受けた指導内容を、お互いに球出しをするなどして反復練習する。</p> <p>(2) 個人競技であるが、練習で互いにフォームの確認を行うなど、仲間と共に上達するという意識を持って練習に取り組ませる。</p> | | | <p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日前に顧問との打合せを行い、部員の様子を知らせると共に、練習内容の検討を行う。</p> | | |

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------------|-------------------------------|---------------------|---------------------|-------------------------------|---------------------|---------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------|
| 学校行事や定期 考査等の予定 | 入学式・始業式 部活動紹介 | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 | 始業式 | | 中間考査 | 期末考査 | 終業式 | 始業式 | 学年末考査 | 卒業式・終業式 |
| 各種大会の予定 | 協会主催県大会 | 高体連地区大会 | 高体連県大会 県総体地区大会 | 県総体 | 新人戦地区大会 | 新人戦県大会 | | | 協会主催地区大会 | 協会主催県大会 | | 協会主催地区大会 |
| 練習試合・遠征等 | | | | | テニスフェスティ バル参加 | | | | テニスフェスティ バル参加 | | | |
| シーズン区分 | 充実期・試合期 | 試合期 | 試合期 | 試合期・充実期 | 試合期 | 試合期 | 準備期 | 準備期 | 充実期・試合期 | 試合期・準備期 | 準備期 | 充実期・試合期 |
| 活動内容・ねらい | ・技能の修得 ・大会を通じて見 えた課題の解決 | ・大会を通じて見 えた課題の解決 | ・大会を通じて見 えた課題の解決 | ・大会を通じて見 えた課題の解決 ・技能の修得 | ・大会を通じて見 えた課題の解決 | ・大会を通じて見 えた課題の解決 | ・持久力等の基礎 体力の向上 ・基礎的技術の反 復練習 | ・持久力等の基礎 体力の向上 ・基礎的技術の反 復練習 | ・技能の修得 | ・持久力等の基礎 体力の向上 ・基礎的技術の反 復練習 | ・持久力等の基礎 体力の向上 ・基礎的技術の反 復練習 | ・技能の修得 ・コート整備 |